シラバス番号	1	科目名	生活と環境		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	看護の対象である人間をとりまく環境を地球規模から広く捉え、さらに人間生活と結び付けて考察する。					
授業目標	1. 人間をとりまく環境を地球規模から捉え、看護の対象理解につなげることができる。 2. 地球環境とヒトとの共存に関し、現状や問題点、今後のあり方などについて考えることができる。 3. 人間だけではなく、すべての生命の尊厳を考えることができる。 4. 地域文化、催事より人間の生活を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	地球環境と生物	1. 生命の星「地球」 ・大気、水を持つ惑星の条件 ・生命の誕生と地質時代 ・地球生態系の中の日本	講義
3 4	人間と環境のかかわり	1. 人間の活動による環境への影響 ・ヒトは文化を持つ動物 ・人口、食糧、大気や水質汚染など ・環境問題とSDGs	講義
5	環境の一部として	1. 医療における環境を考える ・人を対象とする現場の特徴 ・コミュニケーションの意義	講義
6	生活と環境	1. 生活の場面と情報伝達 ・社会の一員として ・様々な情報伝達	講義
7 8	いのちと文化	1. 行事と生活　・暦法と24節気・年中行事の意味 （自然に対する人間の畏敬の念とその行為） 2. 死に対する意識の持ち方　・死亡診断以後の儀式の意味 （仏教における火葬・通夜・葬式・満中陰の意味）	講義

テキスト	系統看護学講座　基礎分野　文化人類学　医学書院 系統看護学講座　基礎分野　生物学　医学書院
成績評価	講義への参加態度やレポートなどを用いて評価する

シラバス番号	2	科目名	情報収集と管理		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名　専任教師1名					
授業概要	医療の現場においても、電子カルテなどコンピュータを扱う知識がますます重要になってきている。情報収集の方法、著作権などの情報管理について理解するとともに、基礎的な知識を学び、実際にコンピュータを操作して、基本的な技能を身につける。データを使ってわかりやすくプレゼンテーションする能力を養う。					
授業目標	1.情報化社会に適応できる能力を身につける。 2.情報収集の方法として、文献検索の方法や、NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）、著作権などの情報管理について理解する。 3.医療の現場で業務に必要な電子カルテの操作など実際にコンピュータを操作して、基本的な技能を身につける。 4.データを使ってわかりやすくプレゼンテーションする能力を養う。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	情報の定義と特徴 情報セキュリティ	情報の特性・情報の認知と意思決定・情報の伝達 不正ログイン・パスワード管理	講義
2	コンピューターリテラシー	デジタルデータの特徴 インターネットに関する基礎知識と注意点 ソーシャルメディア	講義
3	情報と倫理	情報倫理とは 知的財産の尊重 個人情報の保護 情報通信技術(ICT)とその活用	講義 レポート
4	Windowsの基本的操作	ワープロソフトの使い方	演習
5	情報処理	Excelの基本操作1 オートフィル　・　グラフ	演習
6	情報処理	Excelの基本操作2 絶対参照　・　IF	演習
7	情報処理	Excelの基本操作3 表作成　・　IF関数　・　複合　・　ネスト	演習
8	Excel関数の活用	文字列関数等 確認テスト対策	演習
9	Excel関数 プレゼンテーション	確認テスト プレゼンテーションソフトの活用	演習
10	iPadでスライド作成	情報の発表とコミュニケーション プレンゼンテーションの基本 iPad　keynoteアプリを使ってみよう	演習
11	iPadでスライド作成	テーマを決めてプレゼンテーション作成	演習
12	プレゼンテーション	各自プレゼンテーションを動画撮影して提出	発表

13	情報処理 既存の情報の収集方法	文献検索の目的を理解する 文献検索の方法を学び、実際に演習を行う	講義 演習
14	NIEについて	NIEの意義 新聞を知る・新聞で学ぶ・新聞を作る NIEの実践(新聞づくり) 新聞を知る・新聞で学ぶ・新聞を作る	講義 演習
15	NIE　作成した新聞の紹介	学校の掲示板で公開 プレゼンテーション	投票 発表
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院 情報のノート　新・見てわかる社会と情報　日本文教出版 看護研究のための文献検索ガイド第4版　日本看護協会出版会		
成績評価	レポート　コンピューターの演習における課題・個人情報保護 グループワーク・演習・参加度		

シラバス番号	3	科目名	思考のレッスン		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	質問する力、大切なものを選び出す力、創造的思考能力、目標設定する力について学ぶ。					
授業目標	講義を通して、以下の①～⑥の能力を涵養する。 ①質問する力 ②批判的思考能力＝大切なものを選び出す力（吟味する、はっきりさせる、系統立てる、論理立てる、分析する、一般化する、仮説を立てる、与えられている選択肢を検証する、予想するなど） ③創造的思考能力（アイデアを作り出す、他の方法を見つけ出す、柔軟性、多様なアプローチができる、前提を疑ってみるなど） ④論理的思考能力 ⑤自己調整学修力（自己教育力） ⑥メタ認知					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ガイダンス	・本科目の進め方 ・哲学的ディベートに向けて ・思考のレッスン（問に向き合う） ・「滅びゆく地球」に関して	
2 3	テキスト① 「思考の整理学」に関して	テキストをもとにそれぞれのテーマについて討論	グループdiscussionと問答
4 5	テキスト② 「Why型思考」に関して		
6 7			
8 9	省察力の育成①	・看護におけるリフレクション （テキスト③の第1・3章をもとに）	グループdiscussionと問答
10 11	省察力の育成②	・リフレクションに必要なスキルの修得 （テキスト③の第1・3章以外をもとに）	
12 13	哲学的ディベート	・代理出産について （肯定派3グループ対反対派3グループ） ・デザイナーズベイビーについて （肯定派3グループ対反対派3グループ）	肯定派vs否定派に分かれて ディベート
14 15	まとめ	・「考える」とは？　「わかる」とは？　「学ぶ」とは？ 「WHY型思考」とは？	

テキスト	①外山滋比古：思考の整理学．ちくま書房、1986． ②オリジナルテキスト（別途購入） ③メラニー・ジャスパー著、中田康夫/光成研一郎/山崎麻由美　監訳：ナースのための反省的実践．ゆみる出版、2014．（別途購入）
成績評価	終講時学科試験、ディベート内容、授業へのコミットメント等により総合的に評価

シラバス番号	4	科目名	外国語Ⅰ		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	医療現場での実際的な会話力を身につけ、実務に活かす能力を習得する。日本医学英語検定4級合格を目標として電子カルテに記載される医学英単語を習得していき患者把握を迅速に行い臨床判断に結びつける力を習得する。					
授業目標	医療英語の基礎的能力を身につける。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	Is this your first visit to this hospital?	患者の基本情報を尋ねる。	原則、テキストに沿って講義を進めるが、適宜ペアワークやロールプレイを実施し、会話の訓練を行う。 また、毎回、前回の復習小テストを実施し、語彙などの定着をはかる。 （必用に応じてプリント教材を使用することがある。） 日本医学英語検定試験4級受験に向けた演習 を含む 毎年6月中旬
2	What's the matter?	主訴・症状を尋ねる、体の部位に関わる語句を学ぶ。	
3	You need to see a sermatologist.	診療科名について知る	
4	Let me direct you to radiology.	診療科名復習、院内を案内する表現を学ぶ。	
5	Let's check your height and weight.	身体測定に必要な表現、数字の読み方、聞き取り練習。	
6	I need to ask you some questions.	病気・病歴に関わる表現を身につける。	
7	Can you describe the pain?	症状を詳細に述べる。痛みなどに関する表現を学ぶ。	
8	Rest your arm on the armrest.	患者に対する支持、体位変換に関わる表現を学ぶ。	
9	Please make a follow-up appointment.	来院のアポを取る。日時の表し方を学ぶ。	
10	Take this medicine after meals.	与薬・服薬の指示。薬剤名について知る。	
11	Your operation will be this afternoon.	手術に関する表現を学ぶ。	
12	Are you feeling more comfortable now?	術後、回復期に関する表現を学ぶ。	
13	This is the emergency.	救急に関わる表現を学ぶ。	
14	Tests show you have higher sugar levels.	健康診断に関わる英語を学ぶ。	
15	Review	総復習	

テキスト	English for Nurses(Revised Edition)　Asahi Press JASMEE　日本医学英語検定試験3・4級教本　日本医学英語教育学会編　MEDICAL　VIEW 『トシ、聴くだけであなたの医療英単語が100倍になるCDブックよ。』田淵アントニオ　株式会社SCICUS
成績評価	終講時学科試験、オーラルテスト、毎週の医療英単語テスト他

シラバス番号	5	科目名	外国語Ⅱ		科目の区分	基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	1年次後期で学んだ医療英語を活用したコミュニケーションのトレーニング。 医療現場での実際的な会話力を身につけ、実務に活かす能力を習得する。日本医学英語検定4級合格を目標として電子カルテに記載される医学英単語を習得していき患者把握を迅速に行い臨床判断に結びつける力を習得する。					
授業目標	場面に応じたコミュニケーションを図ることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	Is this your first visit to this hospital?	DIALOGUE1 etc	DIALOGUEを中心に実践的なトレーニングを行う。 トレーニングに必要な事前・事後課題に取り組む(クラスメイトとの繰り返しの会話練習) 日本医学英語検定試験4級受験に向けた演習 を含む 毎年6月中旬
2	What's the matter?	DIALOGUE2 etc	
3	You need to see a sermatologist.	DIALOGUE3 etc	
4	Let me direct you to radiology.	DIALOGUE4 etc	
5	Let's check your height and weight.	DIALOGUE5 etc	
6	I need to ask you some questions.	DIALOGUE6 etc	
7	Can you describe the pain?	DIALOGUE7 etc	
8	Rest your arm on the armrest.	DIALOGUE8 etc	
9	Please make a follow-up appointment.	DIALOGUE9 etc	
10	Take this medicine after meals.	DIALOGUE10 etc	
11	Your operation will be this afternoon.	DIALOGUE11 etc	
12	Are you feeling more comfortable now?	DIALOGUE12 etc	
13	This is the emergency.	DIALOGUE13 etc	
14	Tests show you have higher sugar levels.	DIALOGUE14 etc	
15	Review		

テキスト	English for Nurses(Revised Edition)　Asahi Press JASMEE　日本医学英語検定試験3・4級教本　日本医学英語教育学会編　MEDICAL　VIEW 『トシ、聴くだけであなたの医療英単語が100倍になるCDブックよ。』田淵アントニオ　株式会社SCICUS
成績評価	終講時試験 、ミニテスト他

シラバス番号	6	科目名	異文化論・グローバルヘルス		科目の区分	基礎分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	国際救援ならびに開発協力における看護師の活動を学ぶ。 また、看護場面の英会話を通して、国際活動ができる基礎的能力を学ぶ					
授業目標	1. グローバリゼーションと看護の関係について理解する 2. グローバルヘルスや国際協力のしくみ、文化を考慮した看護など国際看護の基礎知識を理解する 3. 国際救援および開発協力における看護師の活動について理解する 4. 国際看護学を支え・発展させていくために必要な教育・研究について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	国際看護学とは	1)国際看護学の定義 2)国際看護学の対象 3)国際看護学に関する基礎知識	講義
2	グローバルヘルス	1)保健医療分野の開発理念の変遷 2)世界の健康問題の現状	
3	国際協力のしくみ	1) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 2) 国際救援の調整 3) 開発協力	
4	文化を考慮した看護	1)看護理論 2)在日外国人への看護の実践	
5	国際看護活動について	1)国際看護活動の展開過程 2) 開発協力と看護 3) 国際救援と看護	
6	国際救援・開発協力 活動事例紹介	体験者による外国語を交えた講演	
7	国際救援・開発協力 活動事例紹介	体験者による外国語を交えた講演	
8	Meeting Patients 患者登録と生活習慣を アンケートする Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する	初診時の登録方法や患者の生活習慣について、質問の仕方を学ぶ。 生年月日や職業、緊急連絡先等、食生活、睡眠、喫煙習慣等について質問し、受診前の患者の基本情報や健康状態を確認把握する。 患者本人や家族の病歴についての応答を学ぶ。 患者の健康状態への理解を深めるために、アレルギーの有無や既往歴等に関する情報を正確に聞きとる。	講義 ペアワーク ロールプレイ DVD
9	Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする Taking Vital Signs バイタルサインを確認する	患者が訴える主訴やその症状、その経過についてのアセスメントについて学ぶ。 感染症の症状や診療科目ごとによく聞かれる主訴も把握しておく。 バイタルサインを計測することで患者の正確な健康状態を把握する。	
10	Taking a Specimen 検体を採取する Conducting Medical Examinations 検査の注意や指示をする	患者の検体を採取するためのやり取りを学ぶ。 患者が検査を受ける場合には、看護師にはその手順などを詳述することが求められる。 さらに実際に検査を行う際には、必要な指示を患者に与え、適切な声掛けをして、患者に不安や負担をかけないことが大切である。	

回	項目	内容	方法
11	Assessing Pain 疾病・負傷による痛みを アセスメントする Advising about Medication 処方された投薬について アドバイスする	患者の痛みへの対応の仕方を学ぶ。 痛みの部位、期間、程度、変化などを患者からしっかり聞きとることが、より適切で効果的な治療へとつながる。 薬の服用方法や副作用の説明、薬の種類について学ぶ。 薬の5原則を意識しながら、与薬の際にコミュニケーションを練習する。	講義 ペアワーク ロールプレイ DVD
12	Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する Maintaining a Good Diet 栄養と食餌について アドバイスする	自分で体を動かすことが困難な患者が動けるようになるための運動や訓練を援助する際の表現を学ぶ。 患者の意欲を高め、積極的にトレーニングに取り組めるよう援助する。 検査結果やケアプランに基づいて患者に健康指導するときの表現を学習する。 一日に必要なカロリーや摂取制限など、食餌・栄養に関する患者指導の表現を習得する。	
13	Caring for Inpatients 入院患者のケアをする Coping with Emergenies 緊急事態に対処する	入院中の患者へのケアに関する表現を学ぶ。 手術前の注意、病院の規則や洗髪、足浴のときの表現を覚え、患者に必要な情報やケアを提供できるようにする。 救急患者への対応を学ぶ。 救急救命室に搬送された患者やその家族に対して、あるいは外出先で遭遇した傷病者に対してどのように対応するのか確認し、救命救急のためのアルゴリズムを習得する。	
14 15	実習で学んだことについて 英語でスピーチ	看護学実習で感じたこと、学んだことについて英語でスピーチする	スピーチ発表

テキスト	系統看護学講座　専門分野　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践3　医学書院
成績評価	スピーチの評価、終講時学科試験、他

シラバス番号	7	科目名	コミュニケーションⅠ		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	看護・医療におけるコミュニケーションの基礎的知識を学ぶ					
授業目標	1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解する 2. 看護・医療におけるコミュニケーションの目的・特徴・重要性を理解する 3. コミュニケーションの構成要素と成立過程について理解する 4. 接近的コミュニケーションについて理解する 5. 本の紹介を通して、学生相互にコミュニケーションの学びを深める					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	コミュニケーションの意義と目的	1)相互作用を生むコミュニケーション 2)人間のコミュニケーションの特徴 3)看護・医療におけるコミュニケーションの目的 4)看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 5)看護・医療におけるコミュニケーションの重要性	講義 演習
2	コミュニケーションの構成要素と成立過程	1)構成要素と成立過程	講義
3	関係構築のためのコミュニケーションの基本	1)コミュニケーションの基本 ①コミュニケーションの分類 ②コミュニケーションの感覚を養う 3つのきく(聞く・聴く・訊く) 話す 相手の気持ちを読み取る 感覚・感性を磨く	講義 演習
4		1)自己理解　ジョハリの窓、リフレーミング 2)他者理解	講義 演習
5		1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度 3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションを成立させるためのまとめ	講義 演習
6 7	コミュニケーションに関する本の紹介	個人ワークの発表、意見交換	講義 演習
8		まとめ	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学2　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　基礎看護
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	8	科目名	人権と赤十字		科目の区分	基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	「人道」に基づき、人間の生命や尊厳を守る意義を理解し、一人一人が赤十字看護師として「人権」を尊重した行動ができるための基本的知識を学ぶ					
授業目標	1.「倫理(善悪の判断)とは何か」について理解する 2.「赤十字の基本原則」について学び、医療現場での「人権」の尊重について理解する 3.「赤十字の基本原則」に基づく意義と重要性、卓越性を理解する 4. 今日、医療現場で起こっている「倫理的諸問題」について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	倫理	・イドラ論【思い込みの自覚】	講義
2		・「選択しているのはあなた自身？」 （ NHK 公開講義　アイエンガー教授 ）	講義 VTR
3		・倫理とは ・慣習倫理と自律倫理	講義
4		・日本人の倫理上の問題点 ・倫理とethics	講義
5	人権	・生命倫理とは ・人権とは	講義
6		・「相模原障害者施設殺傷事件について」 （ NHK こころの時代　辺見庸 ）	講義 VTR
7 8	赤十字の基本原則	・赤十字の歴史と原則 （『赤十字と国際人道法』より ）	講義
9		・「中村哲とアフガニスタン」 （ NHK特集　～武器ではなく命の水を～ ）	VTR
10 11		・人道 （『赤十字の基本原則』より ）	講義
12 13		・公平 （『赤十字の基本原則』より ）	講義
14 15	医療倫理	・インフォームド・コンセント、安楽死　他	講義

テキスト	『赤十字と国際人道法　普及のためのハンドブック』 日本赤十字社 『赤十字の基本原則』 赤十字看護研究会
参考書	『赤十字のしくみと活動』(1年次購入) 『ソルフェリーノの思い出』(1年次購入) 『看護のための生命倫理』 小林亜津子著　ナカニシヤ出版
成績評価	授業への取り組み・姿勢、授業内課題、小テスト(1回)、終講時レポート

シラバス番号	9	科目名	人間関係論		科目の区分	基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	臨床心理学、社会心理学の観点からコミュニケーションや対人関係について理解を深める。					
授業目標	1.人間関係とはなにかを知り、保健医療の専門職として、人間関係に関する概念や理論、スキルを学ぶ 2.人の態度・意図・行動の変容にかかわる理論やモデルを学ぶ 3. 集団が個人の行動や課題の遂行に与える影響を考える 4. さまざまな状況にある患者を理解し、それぞれの状況で患者を支えるための看護師のかかわりを学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	イントロダクション、社会的動機付け	講義概要、狙いについて説明する 人間存在と人間関係	講義、演習 グループワーク （討議と発表） ビデオ鑑賞
2	自己と社会1	社会的態度とその変容	
3	自己と社会2	個人と社会の関係	
4	自己と社会3	対人魅力	
5	攻撃と援助	攻撃行動、援助行動の分類、要因	
6	リーダーシップ	主なリーダーシップ論について理解する	
7	カウンセリング1	人の話を聴くことについてのグループワーク	
8	カウンセリング2	カウンセリングの原理、いろいろな心理療法	
9	カウンセリング3	森林療法の実験と理論	
10	人間論1	パーソン論	
11	人間論2	優生思想	
12	ターミナル	ターミナルのビデオの鑑賞と感想	
13	グループワーク2討議	前回見たビデオをデスエデュケーションに活かす	
14	グループワーク2発表	前回の討議・分類結果の発表と評価	
15	全体のまとめと補足		

テキスト	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論
参考書	明田芳久・岡本浩一・奥田秀宇・外山みどり・山口勧　1998　ベーシック現代心理学7 社会心理学　有斐閣 今井道夫　生命倫理学入門(第4版)　2017　産業図書
成績評価	グループワーク発表の評価、終講時試験

シラバス番号	10	科目名	臨床心理学		科目の区分	基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	看護を行ううえで、患者を理解することは不可欠である。心の健康なくして肉体の健康は成立しないため、そのような患者の心理を考える上で、基礎となる心理学について学び、人間心理を内側から見つめ、より患者の理解を深める					
授業目標	1.心を科学的に探究するための心的過程について理解する 2.医療場面における心理的支援として、アプローチできる知識と技術の基礎を身に付ける					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	心理学とは	1)心理学とはどのような学問か 2)対人援助と心理学 3)心理学の歴史 4)心理学の研究方法	講義・演習
2	感覚と知覚	1)外界を理解する心のはたらき 2)感覚のしくみとはたらき 3)知覚のしくみとはたらき	講義・演習
3	記憶	1)記憶のメカニズム 2)感覚・短期記憶と作業記憶 3)長期記憶と忘却	
4	思考・言語・知能	1)思考 2)言語とコミュニケーション 3)知能	
5	学習	1)学習とは 2)古典的条件づけ 3)オペラント条件づけと学習の理論 4)社会的学習と効果的な学習方法	
6	感情と動機づけ	1)感情の諸相 2)感情のメカニズム 3)動機づけ 4)動機づけの理論	
7 8	性格とパーソナリティ	1)性格とは 2)性格の理論 3)性格の測定	
	社会と集団	1)社会的認知 2)態度と説得的コミュニケーション 3)対人関係と対人魅力 4)集団とリーダーシップ	
9 10 11 12	発達	1)発達とは 2)乳幼児の発達 3)児童・青年の発達 4)成人・高齢者の発達	講義・演習
13	心理臨床	1)心理臨床と臨床心理学 2)心の適応と不適応 3)心理療法	
14 15	医療・看護と心理	1)医療職と対人援助 2)患者の心理 3)医療・看護職の心理 4)医療・看護職の心のケア	講義・演習
テキスト	系統看護学講座　基礎分野　心理学　医学書院		
成績評価	終講時学科試験・参加度		

シラバス番号	11	科目名	人間と社会	科目の区分	基礎分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名				
授業概要	「社会」は行為、行動、社会的相互作用といったものから、家族、地域、組織、社会構造やその変動に及ぶものまでさまざまであり、人間を取り巻く「社会」とは何かを理解する。このことから、看護的な関わりにおいて、患者の家族関係や家庭的状況、社会的立場などを理解し、配慮することが患者理解の深まりに繋がることを学ぶ。				
授業目標	「社会」の成り立ち、現代社会の課題など、人間にとって「社会」とは何かを理解する。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	社会学の基礎概念	授業オリエンテーション	講義
2		社会、社会集団、社会規範、流行・同調、社会化	講義
3		伝統社会と近代社会の違い、現代社会の特徴と 社会変動の方向・考察	講義
4	社会を構成する単位	地域社会、仲間友人集団、社会階層 学生自らの日々の生活や身近な地域社会から考える	講義
5		情報化社会 消費社会	講義
6		少子高齢社会	講義
7	職業の世界	職業、資格、学歴、就職、職場、転勤、社宅、 家業の世界	講義
8	家族	家族の社会学的な意義と機能 近代家族の誕生と変容	講義
9		結婚・離婚・夫婦のあり方 高齢化社会の現在、老親のケア等、高齢者と家族	講義
10		親子関係 虐待、荒れ、いじめ、発達障害のある子どもの育ちについて 支えを失った家族に対する社会的支援について	講義
11 12	社会と人間	家族の今後のあり方 家族をめぐるDVDを視聴する	講義 DVD視聴
13	現代の家族とその課題	家族とは 家族の変容	講義
14		子どもの発見、母性の発見 個人化する家族	講義
15		夫婦関係、親子関係 高齢者問題	講義

テキスト	系統看護学講座　基礎分野　社会学　医学書院 系統看護学講座　別巻　家族看護学　医学書院
成績評価	レポート課題・参加度

シラバス番号	12	科目名	音楽		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	看護現場における、音楽の在り方や活かし方を音楽療法的観点から考え、グループワークを通して体現する。					
授業目標	1.多様な表現方法について各自の可能性を追求する。 2.さまざまな曲に触れ(演奏する/鑑賞する)、広く芸術全般に対する美的直観力を養い、教養を高める。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	授業の概要、目的	オリエンテーション、授業の進め方	演習
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	発声や歌唱の基本、表現力などを学ぶ 歌唱練習	発声法について(姿勢・呼吸法・発音法) 歌唱法について(メロディーの歌い方、表現方法) 季節の歌、癒しの歌、行事の歌など グループで課題の発表	
15	実技発表	個人で課題の発表	

テキスト	適宜プリント配布
成績評価	発表・授業に臨む姿勢等により総合的評価

シラバス番号	13	科目名	体育		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	健康の維持・増進・身体活動・生活行動のあり方について解説するとともに、今日の健康に関わる諸活動とその対応について学ぶ。身体を使って表現し、直観力を養い、心身の開放を促す。					
授業目標	1.スポーツ・エクササイズを通して身体活動に関する知識を獲得する。 2.心身における健康の維持増進の重要性を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	オリエンテーション、ストレッチング	授業の流れを説明 身体をほぐす、レクリエーション	演習 ※動きやすい服装とシューズ、タオル、水分補給のための飲料を準備してください。
2	ネット型ゲームの実践	基本技術の習得、ルールの理解	
3	ネット型ゲームの実践	ゲームの進め方	
4・5	ネット型ゲームの実践	ゲームとチームワーク	
6	転倒予防体操	椅子を使った運動（講義）	
7	転倒予防体操	椅子を使った運動（実技）	
8	転倒予防体操	発表（実技）	

テキスト	なし
成績評価	授業への取り組み、作品発表を総合的に評価

シラバス番号	14	科目名	赤十字活動論		科目の区分	基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	赤十字の活動の基本である「人道」を最高原則とする他の諸原則の実践について理解する 身近なボランティア活動を通して、人と「関り」を持つことの意義と、人を大切にし、人を尊重する「人道」の共通性について学ぶ					
授業目標	1. 赤十字思想の誕生と国際的なしくみへの発展について理解する 2. 日本赤十字社の事業について理解する 3. 赤十字の理念である人道について理解する 4. ボランティアの意義と実情を理解する 5. ボランティアの実践を通して、人道との共通性について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	赤十字の誕生とあゆみ	・赤十字の起こり ・赤十字の理念 ・赤十字の活動と社会的役割 ・NPO（非営利団体）と赤十字	講義 ビデオ鑑賞
2 3		・ 赤十字事業等 国内災害救護、国際活動、赤十字病院、血液事業 青少年赤十字、赤十字ボランティア 救急法等の講習、社会福祉、看護師等の教育 赤十字広報活動、社員制度	支部職員
4 5	赤十字の理念 「人道」	・赤十字の理念「人道」って何だろう	DVD鑑賞 講義 個人ワーク グループワーク
6 7 8	ボランティアとは	1. ボランティアの定義 2. 日本人のボランティア観 3. ボランティアの機能と役割 4. ボランティアについて調べよう	講義 個人ワーク グループワーク

テキスト	ソルフェリーノの思い出 赤十字のしくみと活動
参考資料	新人看護師　若葉と読む「赤十字の基本原則」 集英社　鎌田實著　アハメドくんのいのちのリレー
成績評価	終講時学科試験、レポート、参加度

シラバス番号	15	科目名	生物学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	生物・生命現象の一般原理や基礎、からだがどのように生活行動を成し遂げているのかを学ぶ。					
授業目標	生物学では生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、生物の基本単位である細胞の機能と構造から免疫系の学習に至るまで、ヒトのからだを中心に分子生物学的要素、ゲノムの考え方などを取り入れ、生物体のしくみについて学習します。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	生物とは 細胞の構造と機能	生物体の特徴(生物と無生物) 生物体への物質の出入り	講義
2	生命体を構成する物質	主役はたんぱく質 生体元素と生体を構成する化合物	講義
3	酵素と化学反応	酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒 いろいろな酵素と消化	講義
4	代謝と呼吸 小テスト	生体内での物質交代とエネルギー交代 呼吸のしくみ	講義
5	生殖とは	配偶子の形成(減数分裂)とヒトの性決定 細胞の老化	講義
6	ヒトの発生と分化	発生の過程と器官形成 誘導と分化　細胞死	講義
7	遺伝子の本体と タンパク質合成	DNAの構造と複製 遺伝子からタンパク質合成へ	講義
8	ヒトの遺伝 小テスト	ヒトの遺伝形質　血液型・伴性遺伝 染色体異常・遺伝子変異	講義
9	神経系の構造と働き	刺激から反応まで 興奮と刺激の伝達	講義
10	受容器の種類と働き	視覚・聴覚と効果器	講義
11	自律神経と内分泌系	自律神経はアクセルとブレーキ(拮抗作用) 内分泌系(ホルモン)による持続的調節	講義
12	体内環境の調節 ホメオスタシス　小テスト	自律神経とホルモンによる体内環境の調節 フィードバック調節	講義
13	体液の恒常性 肝臓・腎臓	体内環境としての体液 物を作り蓄え分解する肝臓と体液を浄化し尿を作る腎臓	講義
14	生体防衛	免疫・外敵から体を守るしくみ 液性免疫と細胞性免疫	講義
15	生体防衛2 学習のまとめ	抗原抗体反応とアレルギー 血液型不適合	講義

テキスト	系統看護学講座　基礎分野　生物学 看護形態機能学　生活行動からみるからだ(第4版)　菱沼典子　日本看護協会出版社
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	16	科目名	生活行動からみたからだ1		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	看護を学ぶ上で解剖生理学ではなく、生活行動について形態機能学の視点で学ぶ。 からだがどのように生活行動を成し遂げているかを理解する。					
授業目標	1.「生活行動」とは、何を意味するのかを理解する。 2. からだにとって、「息をする」ということに関連する人体の構造と機能、役割について理解する。 3. 呼吸・循環に関する諸器官の解剖をふまえ、人体での役割や意義を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.生活行動とは	1)生活行動とは	講義 グループワーク
2	2.息をするとは (呼吸器系)	1)呼吸の意義 2)呼吸器の構造	講義
3		3)呼吸運動 (内呼吸と外呼吸、呼吸のメカニズム、呼吸気量)	講義
4		4)ガス交換とガスの運搬	講義
5		5)呼吸運動の調節	講義
6		6)呼吸障害による症状	講義
7		7)呼吸器系の症状が起こるメカニズム (換気障害など)	講義
8		8)呼吸器系のまとめ	講義
9	3.恒常性維持のための物質の流通 (循環器系)	1)循環器系の構成 (循環の意義と呼吸との関連)	講義
10		2)心臓の構造 (心臓の構造・心臓の血管と神経)	講義
11		3)心臓の拍出機能 (刺激伝導系と心電図、心臓の収縮、心周期・心音)	講義
12		4)末梢循環系の構造 (血管の構造、肺循環の血管、体循環の動脈・静脈)	講義
13		5)血液の循環の調整 (血圧や血流量の調整、微小循環)	講義
14		6)リンパとリンパ管 7)胎児循環	講義
15		8)循環器系のまとめ	講義

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　菱沼典子　日本看護協会出版社
参考資料	ナーシングチャンネル　人体の構造と機能
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	17	科目名	生活行動からみたからだ2		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	生活行動を形態機能学の視点で学ぶ。 人間が生命を維持し、活動する上で必要な「食べる・トイレに行く・お風呂に入る・眠る」について学ぶ。 （消化器・腎泌尿器・皮膚粘膜・生体リズム）					
授業目標	1.人間が生命を維持するために必要な生活行動「食べる・トイレに行く・お風呂に入る・眠る」を理解する。 2.「食べる・トイレに行く・お風呂に入る・眠る」ということに関連する人体の構造と機能、役割について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	食べる	1）食欲と食行動 人はなぜ食べるのか 摂食・満腹中枢	講義
2		2）咀嚼・嚥下 咀嚼・嚥下のメカニズム	講義 演習
3		口腔、食道、胃の構造と機能	講義
4		3）消化・吸収 小腸の構造と機能	講義
5		肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能 栄養素と消化酵素	講義
6	トイレに行く	1）排泄行動 2）排便　排便のメカニズム	講義
7		大腸・直腸の構造と機能 排便の異常	講義
8		3）排尿　排尿のメカニズム 腎臓・膀胱の構造と機能 排尿の異常	講義
9 10		4）体液量の調整機構 尿の成分の調整 水分出納 酸塩基平衡	講義 GW
11	お風呂に入る	1）垢を落とす　皮膚の構造と機能 2）皮膚の血管と神経 3）皮膚と付属物 4）皮膚と粘膜　皮膚・粘膜の防御機構	講義
12		5）温まる　入浴が身体に及ぼす影響	講義
13		6）衣生活	講義
14	眠る	1）睡眠とは 2）からだのリズム	講義
15		3）睡眠の生理 睡眠の種類とパターン 睡眠に影響する因子 不眠の影響	講義

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　菱沼典子　日本看護協会出版社
参考資料	ナーシングチャンネル　人体の構造と機能
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	18	科目名	生活行動からみたからだ3		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	からだは外部環境からの刺激をとらえ、反応する。体の調節と統合のうち、神経性調節について学ぶ。また、神経と各感覚器との関係について学ぶ。動きのメカニズムと動くことの日常生活上の意味を考える。					
授業目標	1.運動、感覚、神経など人体の活動を統合するはたらきについて理解する。 2.部位の名称や臓器の名称・行動を知る。 3.日常生活行動におけるからだのしくみを説明できる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	恒常性維持のための調節機構－2（神経性調節）	1）人はどのように情報を得るのか（受容器） ①見る（眼の構造と視覚）	講義
2		②聞く（耳の構造と聴覚・平衡覚） ③におう（嗅覚） ④味わう（味覚） ④触れる	講義
3 4 5		2）認識し判断し記憶する（中枢神経） ①脳 声を出す　（大脳、間脳、中脳、橋、延髄、 聞く・言葉　小脳、脳室、髄膜、脳脊髄液）	講義 グループワーク
6		②脊髄	講義
7		3）情報を伝える（末梢神経）どうやって情報は伝わるのか ①脳神経 ②脊髄神経	講義
8		③自律神経	講義
9	動く	1）姿勢　体位と構え・肢位 2）骨格	講義
10		3）関節 4）骨格筋　（構造・作用・神経支配）	講義
11		5）体幹の骨格と筋 （脊柱・胸郭・背部の筋・胸部の筋・腹部の筋）	講義
12 13		6）上肢の骨格と筋 7）下肢の骨格と筋 8）筋の収縮	講義
14		9）頭頸部の骨格と筋	講義
15		10）日常生活動作、動きと筋・骨格の働き	演習 グループワーク

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　菱沼典子　日本看護協会出版社
参考資料	ナーシングチャンネル　人体の構造と機能
成績評価	終講時学科試験 学習態度、演習参加度

シラバス番号	19	科目名	臨床生化学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	栄養学や代謝学などにつながる生体物質の代謝を理解する。また、様々な生体機能のなかで正常を維持するためにどのような物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常に変化する際にどの経路が関連するのかを知り、実際の疾病がどのように生化学につながっているのかを理解する。					
授業目標	1. 栄養学や代謝学などにつながる生体物質の代謝を理解する。 2. 疾病と生化学について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.生化学を学ぶための基礎知識	A 生化学とは, B 生体の化学の基礎知識 C 生命とは, D 細胞の構造と機能	講義
2	2.代謝の基礎と酵素・補酵素	A 代謝と生体のエネルギー, B 酵素の基礎知識 C 補因子, D ビタミン, E 酵素の反応速度, F 酵素の阻害	講義
3	3.糖質の構造と機能	A 糖質とは, B 単糖の構造と機能, C 二糖の構造と機能, D 多糖の構造と機能	講義
4 5	4.糖質代謝	A 糖質の消化と吸収, B グルコースの分解, C グリコーゲン代謝, D ペントースリン酸経路, E 糖新生, F ガラクトース,マンノース,フルクトースの分解, G 糖質代謝に関する遺伝性疾患	講義
6	5.脂質の構造と機能	A 脂質とは, B 脂質の種類, C リポタンパク質	講義
7	6.脂質代謝	A 脂質の消化と吸収, B 脂肪酸の分解, C 脂質の合成, D 脂質代謝に関する遺伝性疾患	講義
8	7.タンパク質の構造と機能	A タンパク質とは, B アミノ酸, C タンパク質の構造	講義
9	8.タンパク質代謝	A タンパク質の消化と吸収, B アミノ酸の分解, C 非必須アミノ酸の合成	講義
10 11	9.ポルフィリン代謝と異物代謝	A ポルフィリン, B 生体異物代謝, C 活性酸素とその除去反応	講義 小テスト
12	10.遺伝子と核酸	A 遺伝情報, B 遺伝学の基礎知識, C 核酸の構造と機能, D 核酸の代謝	講義
13	11.遺伝子の複製・修復・組換え	A DNAの複製, B DNAの修復, C DNAの組換え, D DNA修復機構の異常による遺伝性疾患, E 遺伝子多型	講義
14	12.転写	A 転写とは, B 転写の開始とRNA鎖の伸長, C 転写の終結, D RNAのプロセシング, E 遺伝子の発現調節	講義
	13.翻訳と翻訳後修飾	A 翻訳の概要, B 翻訳のメカニズム, C タンパク質の折りたたみと輸送・修飾, D 翻訳後修飾, E 細胞内輸送シグナル	講義
15	14.シグナル伝達	A シグナル伝達の概要, B 細胞内シグナル伝達の機序, C 内分泌の生化学的基盤	講義
	15.がん	A がんの性質, B 細胞周期とがん, C がん遺伝子, D がん抑制遺伝子, E 染色体転座, F がん薬物療法	講義

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能2　医学書院
成績評価	小テスト 終講時学科試験

シラバス番号	20	科目名	疾病の理論と原理		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	疾病の発生するメカニズムを理解し、症状の現れる理由や治療の根拠について理論的に学ぶ。					
授業目標	1)疾病の発生するメカニズムを理解できる。 2)病態や診断、治療の根拠について理解できる。 3)遺伝医療における倫理的問題と医療者の役割について理解できる					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.病理学で学ぶこと	病理学とは・疾患の分類	講義
2	2.細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応 組織の修復と創傷治癒	
3	3.先天異常と遺伝子異常	染色体・DNA・遺伝子	講義
4		遺伝形式と主な疾患	
5		先天異常・遺伝子異常の診断と治療	
6		ゲノム医療	講義
7		遺伝医療における倫理的問題と医療者の役割	
8	4.循環障害	浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症	講義
9		虚血と梗塞、側副循環による障害、ショック 高血圧症、DIC 循環器系の主な疾患	
10	5.炎症と免疫 移植と再生医療	炎症とその分類、免疫と免疫不全	講義
11		アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療	
12	6.感染症	感染と宿主の防御機構 おもな病原体と感染症 感染症の治療と予防	
13	7.代謝障害	脂質代謝障害、蛋白質代謝障害、糖尿病	講義
14	8.腫瘍	腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりと影響	講義
15	9.腫瘍各論	腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療 腫瘍の統計	

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能1　解剖生理学　医学書院 講義プリント（適宜配布します）
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	21	科目名	病態生理学1		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名　専任教師1名					
授業概要	呼吸機能障害・循環機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置に関する基本的知識を学び、 機能障害をもつ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。					
授業目標	1. 各疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 2. 疾患をもつ対象を理解し、看護について考えることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 呼吸機能障害 1)呼吸機能障害の成り立ちと症状・看護	(1)喀痰　(2)血痰・喀血　(3)咳嗽　(4)胸痛　(5)呼吸困難 (6)チアノーゼ　(7)ばち指　(8)発熱　(9)呼吸の異常 (10)声の異常　(11)いびき　(12)意識障害	講義
2	2)呼吸機能障害のある対象が受ける検査・治療・処置	(1)喀痰検査　(2)胸水検査　(3)画像診断　(4)内視鏡検査 (5)胸腔ドレナージ　(6)呼吸器外科の手術　(7)血液ガス	講義
3	3)疾患の理解と対象の看護	(1)感染症(インフルエンザ、肺炎、結核)	講義
4		(2)肺腫瘍	講義
5		(3)呼吸不全　肺血栓塞栓症	講義
6		(4)気胸　人工呼吸器を装着する患者の看護	講義
7		(5)喘息	講義
8		(6)間質性肺疾患	講義
9	2.循環機能障害 1)循環機能障害の成り立ちと看護	(1)胸痛　(2)動悸　(3)呼吸困難　(4)浮腫　(5)チアノーゼ (6)めまい・欠神　(7)四肢の疼痛　(8)ショック	講義
10	2)呼吸機能障害のある対象が受ける検査・治療・処置	(1)心電図　(2)胸部X線検査　(3)心エコー法 (4)心臓カテーテル法　(5)血行動態モニタリング (6)内科的治療　(7)外科的治療　(8)補助循環装置	講義
11 12 13 14 15 16	3)疾患の理解と対象の看護	(1)虚血性心疾患 (2)心不全・血圧異常 (3)不整脈 (4)弁膜症・心膜炎 (5)心筋疾患	講義 グループワーク

テキスト	系統看護学講座　専門分野　呼吸器　成人看護学2　医学書院 系統看護学講座　専門分野　循環器　成人看護学3　医学書院
成績評価	終講時学科試験 学習態度

シラバス番号	22	科目名	病態生理学2		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名　専任教師1名					
授業概要	栄養代謝機能障害・排泄機能障害・内部環境調節機能障害・体液調節機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身に付けることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。					
授業目標	1. 各疾患の病態生理・検査・処置・治療について理解する。 2. 疾患をもつ対象を理解し、看護について考えることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 栄養代謝機能障害 1)栄養代謝機能障害の成り立ちと症状・看護	・嚥下困難　・腹部膨満 ・吐きけ・嘔吐　・下痢 ・腹痛　・便秘 ・吐血・下血	講義
2	2)疾患の理解と対象の看護	(1)食物の移送障害を起こす疾患 ・食道がん	講義
3		(2)消化吸収障害を起こす疾患 ・胃がん ・胃・十二指腸潰瘍	講義
4		(3)肝機能障害を起こす疾患 ・肝硬変 ・門脈圧亢進症	講義
5 6		・肝硬変の事例:症状の理解(黄疸・腹水・肝性脳症) 看護援助の検討	講義
7		・胆石症 ・胆管・胆嚢がん	講義
8		(4)膵機能障害を起こす疾患 ・膵炎 ・膵がん	講義
9		(5)糖代謝障害を起こす疾患 ・糖尿病	講義
10	2. 排泄機能障害 1)疾患の理解と対象の看護	(1)排便の調節障害を起こす疾患 ・クローン病 ・潰瘍性大腸炎	講義
11		・腸閉塞 ・結腸がん・直腸がん ・排便経路の変更(人工肛門)	講義
12	3. 内部環境調節機能障害 1)内分泌機能障害の成り立ち	(1)内分泌機能の概要 ・ホルモンとは、役割 (2)内分泌器官と分泌されるホルモンについて (3)ホルモンの特徴 (4)各ホルモンの働きについて (5)ホルモンの生体リズム	講義
13 14		(1)各ホルモンの分泌異常について	講義

回	項目	内容	方法
15	2)体液調節機能障害の疾患の理解と対象の 看護	(1)腎臓の働き (2)生じやすい身体的問題 (3)ネフローゼ症候群 (4)腎不全 (5)生じやすい心理的・社会的問題 (6)疾患の経過と看護	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　消化器　成人看護学5　医学書院 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　成人看護学6　医学書院 系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器　成人看護学8　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　成人看護
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	23	科目名	病態生理学3		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師5名　専任教師1名					
授業概要	脳神経・感覚機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎知識を 身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。					
授業目標	1. 脳神経・感覚機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療の理解ができる。 2. 脳神経・感覚機能障害の患者の看護について考えることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	Ⅰ脳機能障害 1.脳神経の看護を学ぶにあたって	1)医療の動向と看護 2)患者の特徴と看護の役割	講義
2	2.脳神経の構造と機能	1)神経系の分類と機能 2)中枢神経系 3)末梢神経系 4)脳・脊髄の保護構造と循環系 5)運動機能と感覚機能	
3	3.症状と病態生理	①意識障害②高次脳機能障害(失語、失行と失認) ③運動機能障害④感覚機能障害 ⑤自律性のある機能の障害 ⑥頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ⑦髄膜刺激症状⑧頭痛	
4	4.病態生理	1)疾患の理解 ①脳血管障害②脳腫瘍③頭部外傷④脳脊髄液の異常	講義
5	5.検査・治療・処置と看護	脳神経障害のある対象が受ける検査と治療・処置 神経学的診察 ①意識状態②運動系③反射系④感覚系 ⑤脳神経系⑥高次脳機能	講義
6		補助的検査法 ①CT・MRI②脳血管撮影③脳脊髄液検査 治療・処置 ①外科的治療法【開頭手術、穿頭術、脳室-腹腔短絡(シャント)術】 ②内科的治療法③放射線療法	講義
7 8 9 10	6.患者の看護	1)疾患をもつ患者の経過と看護 2)症状・障害をもつ患者の看護 3)治療・処置を受ける患者の看護	講義 グループワーク
11 12	Ⅱ感覚機能障害 1.視機能の障害の成り立ちと検査・治療	主な疾患と治療 屈折・調節の障害、白内障、緑内障、網膜剥離、加齢性黄斑円孔 眼底検査、視野検査、硝子体手術など	講義
13	2.聴覚・平衡機能の障害の成り立ちと検査・治療	主な疾患と治療 中耳炎、突発性難聴、メニエール病、喉頭腫瘍 オージオメーター、平衡機能検査	講義
14 15	3.症状の理解	視力低下、難聴、めまい	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　脳神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　眼　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　耳鼻咽喉　医学書院
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	24	科目名	病態生理学4		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	病因と病変の特徴を理解し、機能障害別の病態、治療、検査、看護 について学ぶ					
授業目標	1. 排泄機能障害の主な症状と病態生理、検査、処置、治療に関する基礎的知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について理解する 2. 性・生殖器機能障害の主な症状と病態生理、検査、処置、治療に関する基礎的知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって 検査と治療・処置	腎・泌尿器疾患の特徴 診察　①病歴聴取②診察法：視診、触診 検査　①採尿方法②24時間尿の取り方④X線検査：KUB、IP、RP、UG⑤核医学診断法：Gaシンチ、骨シンチ⑥膀胱鏡⑦尿流動体検査：ウロフロメトリ、シストメトリ 膀胱留置カテーテル挿入中の看護	講義
3	排尿に関連した症状	蓄尿症状 　頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感 　尿失禁：腹圧性、切迫性、溢流性、反射性、機能性、真性 排尿障害 　尿勢低下、尿線途絶、排尿遅延、腹圧排尿、終末滴下	講義 DVD
4	疾患の理解と看護	①腎盂腎炎②膀胱炎③尿路結石④水腎症⑤腎盂がん	講義
5	疾患の理解と看護	膀胱がん 　膀胱の構造と機能 　①症状 　②診断 　③治療　TUR-BT、膀胱内注入、化学療法 　　膀胱全摘出術（代用膀胱、回腸導管、尿管皮膚瘻 　　腎瘻）	講義
6 7	男性生殖器の構造と機能 尿路の通過障害と機能障害	男性生殖器の解剖生理 　精巣、精巣上体、精管、陰茎、陰嚢、前立腺 前立腺肥大症 　症状、治療（薬物療法、TUR-P、Holep） 　術中、術後の合併症、看護	講義
8 9	尿路・性器の腫瘍	前立腺がん 　症状、治療（前立腺全摘出術、ロボット支援手術） 　ホルモン療法	講義
10	男性不妊症	精巣腫瘍 男性不妊症 　検査・治療 　精巣機能障害、精路通過障害、精機能障害	講義

回	項目	内容	方法
11	女性生殖器の看護を看護を学ぶにあたって	1）医療の動向と看護 2）患者の特徴 ・女性生殖器疾患患者の理解 ・発達段階における女性生殖器の発達と疾患 ・看護の役割	講義 グループワーク
12	女性生殖器の構造と機能	1）女性生殖器の構造 ・外性器、外陰、内性器 2）女性生殖器の機能 ・性分化と性腺の発生 ・性周期と性ホルモン ・月経周期とホルモン動態	講義 小テスト
13 14	疾患の理解 診察・検査と治療・処置	1）性分化疾患 ・ターナー症候群 2）臓器別疾患 ・外陰（バルトリン腺炎、バルトリン嚢胞、外陰がん） ・膣（膣炎） ・子宮 （低形成、下垂・脱、筋腫、内膜症、頸がん、体がん、絨毛性疾患） ・卵巣、卵管（卵巣腫瘍） 3）機能的疾患 ・月経異常、月経随伴症状 ・更年期障害 ・不妊症、不育症 ・感染症	講義
15	患者の看護	1）症状とその病態に対する看護 ・性器出血患者の看護 2）臓器別・機能別疾患患者の看護 ・不妊症、不育症患者の看護 ・手術を受ける患者の看護 ・高齢女性に起こりやすい女性生殖器疾患の看護	講義 DVD

テキスト	系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器　成人看護学8　医学書院 系統看護学講座　専門分野　女性生殖器　成人看護学9　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　人体の構造と機能
成績評価	終講時試験

シラバス番号	25	科目名	病態生理学5		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師4名					
授業概要	生体防御機能障害・血液・造血機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身に付けることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。					
授業目標	1. 各疾患の病態生理・検査・治療について理解する。 2. 疾患をもつ対象を理解し、看護について考えることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 生体防御機能障害	1)膠原病とは 2)医療の動向(難病対策) 3)自己免疫疾患とその機序	講義
2	1)疾患の理解	1)関節リウマチ 2)全身性エリテマトーデス 3)シェーグレン症候群 4)多発筋炎、皮膚筋炎 5)ベーチェット病	講義
3	2)症状とその病態生理	1)関節痛・関節炎 2)レイノー現象 3)皮膚・粘膜症状	講義
4	3)検査と治療	1)血清・免疫学的検査 2)薬物療法	講義
5	4)対象の看護	1)症状に対する看護 2)治療を受ける患者の看護	講義
6		3)疾患をもつ患者の看護 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス	講義
7		シェーングレン症候群 多発筋炎・皮膚筋炎	講義
8	2. 血液・造血器疾患 1)血液・造血器疾患の概要	1)医療の動向 2)患者の特徴と看護の役割	講義
	2)血液の整理と造血のしくみ	1)血液の成分と機能 2)止血機構と線溶 3)造血の3要素 4)血液細胞の分化	
9	3)検査・診断と症候・病態生理	1)病歴聴取と身体所見 貧血・発熱・リンパ節腫脹・脾腫・出血傾向 2)検査　末梢血検査・骨髄穿刺・腫瘍マーカー 染色体検査・遺伝子検査 3)症候とその病態生理 貧血・白血球増加症・白血球減少症 リンパ節腫脹・出血性素因	講義

回	項目	内容	方法
10	4)疾患と治療の理解	1)赤血球系の異常 2)白血球系の異常	講義
11		3)造血器腫瘍 造血幹細胞移植 4)出血性疾患	講義
12	5)患者の看護	1)主要症状を有する患者の看護 貧血のある患者の看護 出血傾向のある患者の看護 易感染(白血球減少)状態にある患者の看護	講義
13	5)患者の看護	2)検査を受ける患者の看護 骨髄穿刺	講義
14		3)造血器腫瘍患者の看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 輸血療法	講義
15		4)悪性リンパ腫患者の看護 5)白血病患者の看護	講義
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　アレルギー　膠原病　感染症　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　医学書院		
成績評価	終講時学科試験		

シラバス番号	26	科目名	病態生理学6		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師6名					
授業概要	運動器・神経難病の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎知識を身につけることで、 機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。					
授業目標	1. 運動器疾患、神経難病の症状と病態生理、検査・処置・治療の理解ができる。 2. 運動器疾患、神経難病の患者の看護について考えることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 運動器の看護を学ぶにあたって	1)運動器疾患患者の特徴と看護の役割	講義
2	2. 運動器の構造と機能 3. 症状と病態生理	1)骨・関節・筋・靭帯 2)神経 1)形態・関節運動の異常、跛行 2)神経の障害	講義
3	4. 診断・検査と治療・処置	1)診察・診断・検査【問診・視診・触診(MMT、ROM)】 2)治療・処置	講義
4	5. 疾患の理解	1)外傷性疾患(骨折、脱臼、脊髄損傷)	講義
5		2)内因性疾患 先天性疾患、関節炎(関節リウマチ、変形性関節症)	講義
6		腫瘍(骨腫瘍、肉腫)、骨代謝疾患(骨粗鬆症、骨軟化症) 脊椎疾患(変形性脊椎症、頸髄症、脊柱管狭窄症、 椎間板ヘルニア、側彎症)	講義
7	6. 患者の看護	1)日常生活行動のアセスメント 2)運動機能障害のある患者の看護 事例を用いた病態の理解 経過に応じた問題と看護介入のポイント (変形性関節症)(変形性脊椎症)	講義
8 9 10 11	1. 疾患の理解	末梢神経障害 ①多発性ニューロパチー (ギラン-バレー症候群) 筋疾患・神経筋接合部疾患 ①筋ジストロフィー ②重症筋無力症	講義
		脱髄・変性疾患 ①多発性硬化症②パーキンソン病 ③筋萎縮性側索硬化症 脳・神経系の感染症 ①脳炎②髄膜炎	講義
12	2. 患者の看護	筋ジストロフィー患者の看護	講義
13		重症筋無力症の看護	講義
14		多発性硬化症患者の看護	講義
15		パーキンソン病患者の看護	講義 グループワーク
		筋委縮性側索硬化症患者の看護	講義
		髄膜炎患者の看護	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　脳神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　運動器　医学書院
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	27	科目名	感染症と微生物		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	代表的な感染症と微生物について基礎的な知識を養う。さらに、感染予防策、公衆衛生上の諸問題を視野に入れ、微生物と人との関わりを中心に学ぶ。					
授業目標	1. 微生物の構造・機能を理解し、微生物の基礎知識を習得する 2. 各種微生物の特徴、病原性、検査方法、治療薬について理解できる 3. 看護に必要な感染症の予防と治療に関する基礎知識、援助方法を習得できる					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	微生物学の基礎①	微生物とは？を起点に細菌の分類、形状、性質	講義
2	微生物学の基礎②	真菌、原虫、ウイルスの分類、形状、性質	講義
3	感染とその防御①	感染の成立から発症・治癒 生体の防御機構 感染源・感染経路からみた感染症	講義
4	感染とその防御②	滅菌と消毒 感染症に関連した臨床検査と診断	講義
5	病原性微生物	病原微生物の種類と検査方法	講義
6	細菌学各論①	ｸﾞﾗﾑ陽性球菌、ｸﾞﾗﾑ陰性球菌、ｸﾞﾗﾑ陽性桿菌、 ｸﾞﾗﾑ陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について 種類、感染、検査	講義
7	細菌学各論②	ｸﾞﾗﾑ陽性球菌、ｸﾞﾗﾑ陰性球菌、ｸﾞﾗﾑ陽性桿菌、 ｸﾞﾗﾑ陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について 種類、感染、検査	講義
8	ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ・ﾘｹｯﾁｱ・ 真菌・原虫各論	ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ・ﾘｹｯﾁｱ・ｸﾗﾐｼﾞｱや種々の真菌、原虫のなか でも病原性のあるもの	講義
9	ウイルス学各論	DNAウイルス、RNAウイルスの種類、感染形態、検査	講義
10	感染症の治療	化学療法剤に関して種類、薬効 感染症の現状と対策に関して、監視体制	講義
11	感染症についての知識	1)感染症の変遷と現状 2)感染予防の意義 3)感染症に関する法律 　感染症法に基づく感染症の分類 4)手洗いの基本 5)標準予防策(スタンダードプリコーション) 6)感染経路別予防策 7)医療廃棄物の取り扱い 　バイオハザードマーク	講義 演習
12 13	感染予防の看護技術	1)手洗い 　衛生学的手洗い 2)スタンダードプリコーション 　マスク、ガウンテクニック、グローブ	演習
14	感染に対する生体防御機構	1)免疫について 2)ワクチン 3)化学療法 4)適切な飲食・排泄・活動休息への援助	講義
15	感染予防における看護師の責務と役割	感染症に関する事例検討 　感染症発症時の対応	講義 グループワーク

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進4　微生物学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
成績評価	小テスト、終講時学科試験、参加度

シラバス番号	28	科目名	薬剤学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名　専任教師1名					
授業概要	薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、安全な薬物の取り扱いができる基礎知識を学ぶ。					
授業目標	1. 薬物療法の目的を理解する。 2. 薬物治療における看護師の役割を理解する。 3. 安全に医薬品を取り扱うための知識を習得する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	薬物治療と看護	・薬物とは、薬物の使用目的 ・薬物治療における看護師の役割	講義
2	薬力学・薬物動態	・薬物受容体、イオンチャネル ・薬物の投与経路 ・薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）と指標	
3	薬物相互作用 副作用	・薬物動態的相互作用 ・薬効の個人差に影響する因子、副作用、薬物耐性	
4	薬と法律	・医薬品に関する法律と取扱い ・医薬品使用時の注意（処方せん、添付文書） ・新薬の開発	
5	事例検討	・薬物関連の医療事故事例等から薬物療法における多職種連携の重要性を考える	グループワーク
6	抗感染症薬	・感染症治療に関する基礎事項 ・抗菌薬・抗ウイルス薬	講義
7	抗がん薬	・眼治療に関する基礎事項 ・抗がん薬各論	
8	免疫治療薬	・免疫抑制薬、免疫増強薬 ・予防接種薬	
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬	・抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 ・ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬	
10	末梢での神経活動に作用する薬物	・交感神経作動薬・副交感神経作動薬 ・筋弛緩薬・局所麻酔薬 ＊救急時に使用する薬物を含む	
11	中枢神経系に作用する薬物	・全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 ・向精神薬	
12	循環器系に作用する薬物	・降圧薬、利尿薬 ・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬 ＊救急時に使用する薬物を含む ・血液に作用する薬物	
13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	・気管支喘息治療薬 ・消化性潰瘍治療薬 ・性ホルモン、子宮収縮薬	
14	物質代謝に作用する薬物	・糖尿病治療薬 ・治療薬としてのビタミン	
15	薬剤部見学 その他の薬物	・薬剤部見学：調剤・調整等 【薬剤部見学時間以外　自習内容】 皮膚科用薬・眼科用薬、漢方薬、消毒薬、輸液製剤・輸血剤	見学・自習

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	29	科目名	栄養学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	生活習慣病が大きな健康問題になっているわが国において食習慣の改善は重要な課題である。また食の情報が氾濫する中で、正しい知識を持ち何が健康によいのかを判断する能力が求められている。ここでは臨床栄養学の基礎知識を理解し、看護対象者の生活や健康状態に合った食生活の援助方法を見極め、実践できる能力を養う。また関連職種の中での看護師の役割を学ぶ					
授業目標	1. 食習慣と生活習慣病の関連について理解する 2. 臨床栄養学の基礎的知識を看護対象者の生活や健康状態に合った食習慣の援助方法について理解する 3. 関連職種の専門性を知り、看護の役割を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	食事療法の実際	治療食の実際の見学・試食	演習
2 3	臨床栄養学の基礎知識	①人間栄養学と看護 ②栄養素の種類とはたらき ③食物の消化と栄養素の吸収・代謝 ④エネルギー代謝 ⑤食事と食品	講義
4	栄養ケア・マネジメント ライフステージと栄養	①栄養状態の評価・判定 ①人生各期における健康生活と栄養	講義
5 6	臨床栄養	①栄養補給方法 ②疾患・症状別栄養食事療法	講義
7 8	健康づくりと食生活	①食生活の変遷と生活習慣病の予防 ②食の安全性と表示	講義
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能3　医学書院 系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院		
成績評価	終講時学科試験、レポート、参加度		

シラバス番号	30	科目名	臨床検査・臨床放射線医学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師4名					
授業概要	臨床検査・X線診断・内視鏡検査のプロセスを知り、看護師の役割を学ぶ					
授業目標	1. 臨床検査の意義・目的が理解できる。 2. 検査データを解釈するための知識を得ることができる。 3. 臨床検査における注意事項や看護師の役割について理解できる。 4. 放射線治療、内視鏡検査・治療の目的・内容・方法が理解できる。 5. 放射線治療、内視鏡検査・治療での看護師の役割について理解できる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	臨床検査とその役割	1. 現代科学と医療 2. 診療における臨床検査の役割 3. 臨床検査の種類 4. 臨床検査の評価 5. 臨床検査の戦略と技術の動向	講義
2	臨床検査の流れ	1. 臨床検査の流れ 2. 臨床検査の準備 3. 患者に対する説明 4. 検体の採取法、保存・移送法 5. 検査による危険とその防止策	講義
3	臨床検査各論	・一般検査（尿・便・体液・髄液・関節液・消化液）	講義
4		・血液検査、化学検査、免疫血清検査、病理検査、生理機能検査	講義
5	臨床検査の実際	・生体検査、検体検査、形態検査の実際	演習
6 7 8 9	放射線治療・画像診断の実際	・X線診断・CT・MRI・核医学検査・IVR・血管造影 ・放射線治療（リニアック）	演習 講義
10	IVR・血管造影 放射線治療 放射線科の看護	1. IVR・血管造影の特徴、なりたち 1. 人体に対する放射線の影響 2. 放射線治療総論 3. 放射線治療の方法 1. 放射線治療・画像診断における看護	講義
11	X線診断 CT MRI 核医学検査 放射線防護と健康管理	1. X線診断の特徴、なりたち 2. X線診断 1. CTの特徴、CT装置と画像のなりたち 2. CT診断 1. MRIの特徴、MRI画像のなりたち 2. MRI診断 1. 核医学検査の特徴、なりたち 2. 核医学検査の診断 1. 放射線障害 2. 放射線防護の基本と健康管理	講義
12 13 14 15	内視鏡検査	1. 内視鏡の種類と構造 2. 内視鏡検査と診断・治療 3. 内視鏡検査の実施と注意事項 検査前・中・後の看護	講義
テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床検査　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　　医学書院 資料		
成績評価	演習参加度、終講時学科試験		

シラバス番号	31	科目名	災害医療論Ⅰ		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期・後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	専任教師2名　他					
授業概要	国内外の災害に対する関心と防災意識を高め、災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解した上で、災害医療活動に参加できる基礎的知識を学ぶ。 また、災害救護演習・被災者体験を通して、災害看護への関心を高める。					
授業目標	1. 災害および、災害医療に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害への備えができる。 4. 災害医療活動に参加できる基礎的能力を習得する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	災害看護学を学ぶ意義 災害医療の基礎知識	・災害被害の国際化 ・近年の国内外の災害 ・災害看護の歩みと役割 ・人道支援の原則 ・災害の定義 ・災害の種類と健康障害　　災害後のストレス・災害関連死	講義
3 4	災害医療の特徴 災害と情報、連携 災害と法律	・災害医療と救急医療の違い ・災害医療における体系的アプローチ ・トリアージの基本 ・災害情報の種類 ・災害救護活動のための情報収集 ・国・地方公共団体・赤十字等との連携 ・災害救助法・災害対策基本法	講義
5 6 7 8	国内の救援活動の現状と課題	・東日本大震災における被災病院の活動 ・看護学生としての行動 ・災害時要配慮者への支援 　*参考:避難生活支援講習 ・災害救護訓練の必要性	動画視聴 グループワーク
9 10	傷病者について	・傷病者の病態、被災者の心理 　傷病者メイク(トラウマメイク) 　災害救護演習の準備	事前課題 演習
11 12 13	災害救護演習	トレーニングセンター 1. 基礎行動訓練(集団行動訓練など) 　救護資機材の取扱い(テント、担架類、無線など) 2. 災害救護演習 　傷病者の役割を通して、救護者の役割、関わり方を学ぶ	合同演習
14 15	演習まとめ	・振り返り ・次年度への課題	グループディスカッション

テキスト	系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　医学書院
成績評価	参加度、課題レポート

シラバス番号	32	科目名	災害医療論Ⅱ		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	赤十字救急法指導員					
授業概要	赤十字救急法の講習を通して、災害・救急時に必要な手当ての基本など基礎的技術を習得する。					
授業目標	1. 心肺蘇生法（AEDを含む）を習得することができる。 2. 傷病者への適切な対応、応急手当ができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3 4	赤十字救急法 基礎講習	1. 赤十字救急法について 2. 手当の基本 　観察の基本・保温 3. 一次救命処置 　心肺蘇生・AEDを用いた徐細動・気道内異物 4. 検定（実技・学科）	講義 演習
5 6 7 8 9 10 11 12 13	赤十字救急法 救急員養成講習	1. 赤十字救急法救急員について 2. 急病 　心臓発作・脳卒中・熱中症等の応急手当の必要性 3. けが 　きず・骨折・熱傷の手当について 4. 止血法 　直接圧迫止血法・ターニケット 5. きずの手当 　きずの種類と手当の基本 　包帯法・三角巾の使い方 6. 骨折の手当 　骨折の特徴と手当の基本 　固定法 7. 搬送 　搬送の基本と方法 　担架・応用担架 8. 救護 　災害時の心得、日常の準備 9. 総合実技 　救護シミュレーション 10.検定 ・学科検定 ・実技検定 　止血法、包帯法・固定	講義 演習 筆記 実技
14 15	事例検討	事例を用いて、災害への備えや応急手当・対応を考える	グループワーク

テキスト	赤十字救急法教本（基礎講習教本・救急法講習教本）
成績評価	赤十字救急法基礎講習・救急員養成講習検定 参加度、レポート課題

シラバス番号	33	科目名	医療概論		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名　専任教師1名					
授業概要	医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱かえているかを理解し、深く考える。人間の健康を守る営みがどのように変遷してきたかについて、人々の健康観および家族の役割と職業として専門分化した職種の役割や協働を通し、医療の動向と医療看護提供システムについて学ぶ。患者からみた「医」の「論理」と「倫理」「管理」について考える。					
授業目標	1.医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について理解する 2.医の倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報等、現在の医療に関わる諸問題について理解する 3.医療現場の視点に留まらず、社会全体の視点に立って、経済学や政策を通じて医療を良くするという考え方の基本を理解する 4.医学の歴史に結び付けて看護史を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	第1章 生きることと 死ぬこと	1. 生命を尊ぶ心 2. 健やかに生きる 3. 老いてこそ人生 4. おだやかに死ぬこと　終末期を考える	講義
	第2章 医学と医療	1. 温故知新　医学の歴史に学ぶ 2. 臨床疫学とEBM	
2	第3章 保健・医療・介護 切れ目ない サポートの実現	1. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2. 社会保障制度 3. 公衆衛生と保健 4. わが国の医療システム 5. 救急医療・集中医療 6. がん治療 7. 周産期医療 8. 放射線診断 9. チーム医療 10. リハビリテーション 11. 介護	講義
3	第4章 医療と社会	1. 医の倫理 ・生命倫理とは ・患者の権利 ・研究倫理	講義
4	第4章 医療と社会	1. 医療安全 ・医療事故と医療過誤 ・医療安全対策のはじまり ・医療過誤の原因と対策 ・医療事故調査制度 2. 医薬品 ・医薬品の分類 ・医薬分業 ・後発医薬品 ・ポリファーマシー ・かぜに対する抗菌薬使用の問題 ・医薬品の有害事象 ・薬害	講義

5	第4章 医療と社会	1. 最先端医療 ・臓器移植医療 ・生殖補助医療 ・再生医療 ・ゲノム医療 2. 医療情報 ・医療情報と個人情報保護 ・医療ビッグデータ ・人工知能(AI)による医療支援	講義
6	第5章 医療経済学 と医療政策 と医療政策	1. 経済学を用いて医療を読み解く ・医療者が経済学を学ぶ意義 ・医療サービスの特殊性 ・公的医療保険はなぜ必要か ・医療の質評価と情報公開 ・医療サービスの規制 ・医療職の不足 2. 転換を迫られる医療政策 ・国民医療費 ・これまでの医療費抑制策 ・急性期医療の集約化 ・医療サービスの費用効果分析 ・まとめ　医療者が持つべきコスト意識	講義
7	看護史	1. 看護史の意義 2. 原始看護 3. 古代文明国における看護 4. 西洋医学の源流 5. カトリックによる宗教的看護 6. わが国における仏教看護 7. 近世日本の医療と看護 8. 近代看護の確立	講義 DVD事前学習
8	看護史に 興味・関心を 持ち、理解を 深めよう	課題発表「看護史について」 意見交換	演習

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　医療概論　健康支援と社会保障制度1　医学書院 系統看護学講座　別巻　看護史　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　看護の歴史
成績評価	レポート・参加度・終講時学科試験

シラバス番号	34	科目名	公衆衛生学		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	3年次前期		単位数	2	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名　姫路市保健所　保健師1名					
授業概要	公衆衛生の理念や健康の概要を理解した上で、種々の公衆衛生分野の現状と課題を学ぶ。					
授業目標	1.健康の概念を理解した上で、種々の公衆衛生分野の現状と課題を把握する。 2.医療に関連する社会保障制度（医療保障・介護保険制度など）を理解し、臨床現場でも活用できるようにする。 3.公衆衛生分野における保健所の役割について、理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	公衆衛生の理念	・公衆衛生を学ぶにあたって ・公衆衛生のエッセンス	講義
2		・公衆衛生の活動対象 ・公衆衛生のしくみ	
3	疫学・保健統計	・集団の健康をとらえるための手法	
4	環境と健康	・健康管理と環境要因	
5	感染症とその予防対策	・感染症と予防の基礎知識 ・わが国の感染症予防対策 ・院内感染とその予防 ・公衆衛生上の重要な感染症とその対策	
6	国際保健	・世界との出会い ・経済格差と健康格差 ・国際保健の担い手 ・国際保険の共通目標 ・国際保健と日本	
7 8 9 10	公衆衛生の技術と実践Ⅰ	・公衆衛生看護とは ・母子保健 ・成人保健 ・高齢者保健 ・精神保健・歯科保健 ・障害者保健・難病保健	
11 12	公衆衛生の技術と実践Ⅱ	・学校と健康 ・職場と健康 ・健康危機管理・災害保健	
13 14	保健所の公衆衛生活動	・保健所の役割と業務内容 食品衛生、健康増進・疾病予防など 母子保健活動、精神障害者支援など	保健所訪問　保健所職員
15	保健師の活動	保健師の役割と業務内容	講義　保健師

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[2]　公衆衛生　医学書院 厚生労働統計協会　厚生の指標　増刊　国民衛生の動向（1年次購入）
成績評価	課題；ゼミナールの解答・レポート他　終講時学科試験　授業態度・参加度

シラバス番号	35	科目名	社会保障論		科目の区分	専門基礎分野
履修年次	3年次前期		単位数	2	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	complianceを実現する主体としての看護師が、そのリテラシーを強化すべき、生活者の社会的背景、様々な社会制度を積極的に理解するために、法的側面、社会保障的側面から援助する。					
授業目標	1.学習の端緒となる社会生活上の事案及び我が国を取り巻く地球規模の課題とこれから学ぶ学問との関係を知る。 2.看護の対象及び看護者自身の人生の営みを鳥瞰して、生活や生命の質について考える。 3.「国民衛生の動向」を反面教師として、この国のありのままの姿を直視するとともに将来のあるべき姿を考える。 4.現場での具体的な課題を考察する中で、関連する法規や社会保障制度の理解を通して、国家試験対策へと導く。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護の国際性	第二次世界大戦の終結後からの、国際連合の活動の中で構築されてきた国際法の理解とりわけ条約（環境問題系、健康問題系、医療問題系）の理解及び非国連関係の活動、二国間協力活動	講義・質疑応答
2	人生ゲージ	人間の誕生から終末を通して死に至るまでと法律との関わり	
3	国民衛生の動向	公衆衛生学的観点から考察した社会環境	
4	国試必須項目	1.医療保険制度 2.介護保険制度 3.保健師助産師看護師法に関する改正内容 4.看護師等の人材確保の促進に関する法律の改正内容	
5	法と倫理の硲	主に生命倫理と法律や自然の摂理との関係	
6	看護行為の法的性格	看護師の業務拡大と法や通達との関係	
7		1.看護に関するcompliance（看護の対象の自己決定権の権利擁護と裁量権の関係）と法的義務（善良な管理者とは）との関係 2.医療過誤や医療事故と責任（法的責任、倫理的責任）の類型	
8	法の仕組み	現行法体系	
9	法と社会保障の関係	法律と社会保障制度の相関関係	
10	関連法規　Ⅰ	保健衛生（健康増進、地域保健、精神保健等） 予防衛生（感染症等）	講義・質疑応答 グループワーク
11	関連法規　Ⅱ	医事、薬事、環境衛生、公害、学校関係	講義・質疑応答
12	関連法規　Ⅲ	両立支援における労働問題及び所得保障問題	
13	社会保障　Ⅰ	所得格差と健康格差を社会保障制度の中で事例演習する	
14	社会保障　Ⅱ	保健 ⇒ 医療 ⇒ 福祉のシステムを、社会的弱者を中心に考察する 1.面前DVと児童虐待 2.認知症患者の増大と医療福祉の対応 3.関係機関の相互関係	講義・質疑応答　グループワーク
15	社会保障　Ⅲ	利他愛を実現するために必要な理論武装とは？	講義・質疑応答

テキスト	「新版　看護を学ぶための法と社会保障制度　生活者の健康を主体的に支援するために」（ふくろう出版）
成績評価	終講時学科試験（空所補充、多肢択一等）及びレポート課題（10点分）

シラバス番号	36	科目名	看護学概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師1名					
授業概要	看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であるが、永遠に「看護とはなにか」を追求し続ける学問でもある。看護学の全体の基本内容を含み、看護の本質について看護観、人間観、世界観を形成する基礎とする。 職業としての看護はサービス業である。安全で安楽、その人の自立を支援する看護サービスの本質は本校の教育理念である「人道」とも関連することを学ぶ。					
授業目標	1.「看護学概論」は何を学ぶのか理解する。 2.「看護」の対象である「人間」について考える。 3.健康の概念について考える。 4.「看護」とは何かについて考える。 5.社会の要請にこたえ得る国家資格を持つ職業として「看護師」の心構えについて考える。 6.「看護であること」「看護でないこと」について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護学への導入 看護とは	1)本科目のカリキュラム全体の位置づけ 2)看護学概論は何を学ぶのか・学び方 3)看護のイメージ 4)イメージマップの書き方 5)看護の語源・原点	「教育課程」使用 講義 演習 イメージマップ
2	看護の対象の理解	1)人間についてイメージマップ 2)「人」と「ヒト」 3)たくましく、うまく、よく、生きる人間 マズローのニード論 4)生活者としての人間 5)生涯発達しつづける存在としての人間 6)看護の対象としての家族・集団・地域	講義 演習 イメージマップ
3	国民の健康状態と生活	1)健康のとらえ方 2)障がいのとらえ方 3)社会の変化と健康観の変化 4)人々の生活と健康に関する統計	講義 演習
4	看護の本質	1)臨地実習の体験から考える 2)看護の定義・看護理論 3)役割と機能	講義 演習
5	看護の提供者 職業としての看護	1)職業としての看護 2)保健師助産師看護師法 3)免許を持つということ （専門職に就くということ）	講義 演習 次回の演習説明
6	保健医療システムと看護	保健医療システムと看護　グループワーク テーマ：看護職者のキャリア開発 地域包括ケアシステム 看護職の役割拡大 看護サービス　他国の看護 ある時代の看護　等	演習
7	保健医療システムと看護	グループワーク発表(ジグゾー)	演習　発表
8	看護の物差し	看護であること、看護でないこと 看護実践を考える時の「看護のものさし」について理解する	講義 演習

テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[1]　看護学概論　別巻　看護史　看護倫理　他 看護覚え書き　フロレンス・ナイティンゲール　日本看護協会出版会 看護の基本となるもの　ヴァージニア・ヘンダーソン　日本看護協会出版会
参考教材	看護職の倫理綱領　日本看護協会 ナーシングチャンネル「看護の歴史」「看護論」4月～9月までに各自視聴
成績評価	終講時学科試験　課題レポート　演習の参加度・プロダクト評価

シラバス番号	37	科目名	コミュニケーションⅡ		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師1名　非常勤講師1名					
授業概要	看護・医療における効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を学ぶ					
授業目標	1. 看護場面での効果的なコミュニケーション技術・実際を理解する 2. 実習体験や演習を通して看護専門職としてのコミュニケーション能力を高める 3. アサーティブ・コミュニケーションについて理解する 4. 対人関係の振り返りについて理解する 5. コミュニケーション障害への対応について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	効果的なコミュニケーション技術	1)コミュニケーションに必要な能力 聴く、話す、理解する、感覚・感性を磨く 2)コミュニケーションに必要な態度 ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ、対象者の尊重	講義
2	効果的なコミュニケーションの実際	1)傾聴の技術 傾聴することの重要性 聴くことの利点・意味・効果 共感的理解 2)情報収集の技術 情報を得るための技術 オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン 3)説明の技術	講義 演習
3 4		アサーティブコミュニケーション	講義 演習
5 6		模擬患者演習	演習
7	対人関係の振り返り	プロセスレコード	講義
8	コミュニケーション障害への対応	1)コミュニケーションに障害がある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障害がある人への対応	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学2　医学書院
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	38	科目名	フィジカルアセスメントⅠ		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	観察・アセスメントの技術は、情報収集を行い対象の全体像を把握し看護を展開する上で、出発点となる重要な技術である。アセスメントは身体面だけではなく、対象の身体的・社会的・精神的な面をアセスメントし全人的に捉える必要がある。既習の解剖学・生理学の内容と結びつけながら、アセスメントの視点を捉えていく。そして、学んだアセスメント技術を活用できるよう、健康な生活者を対象に演習を行いながら講義を展開する。					
授業目標	1. 看護師の観察の意義を理解することができる。 2. 一般状態の観察、生命の徴候であるバイタルサインを測定する意義を理解する。 3. バイタルサインの基礎的知識、正確な測定方法を習得する。 4. バイタルサインに合わせ、全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基礎的知識を習得できる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護における関心とは 観察とは ヘルスアセスメントとは	・看護における観察とは ・観察の方法 ・フィジカルアセスメントとは ・フィジカルアセスメントの意義、目的	講義
2	バイタルサインとは 体温	・バイタルサインとは ・体温とは ・体温に影響を及ぼす因子 ・体温調節のメカニズム	講義
3	体温を調節する技術 罨法	・罨法の効果と適応 ・冷罨法、温罨法の方法	講義・演習
4	生命の徴候を観察する技術 脈拍	・脈拍とは ・脈拍調節のメカニズムと影響因子 ・脈拍部位と測定時のポイント	講義
5	生命の徴候を観察する技術 血圧	・血圧とは ・血圧調節のメカニズムと影響因子 ・血圧測定時のポイント	講義
6	バイタルサイン測定の 実際	・血圧測定	演習
7	生命の徴候を観察する技術 呼吸	・呼吸とは ・呼吸調節のメカニズムと影響因子 ・呼吸測定部位と測定時のポイント	講義
8	バイタルサイン測定の実際	・バイタルサイン測定 体温・脈拍・呼吸・血圧	演習
9	部分のアセスメント	・全身の概観（外見や行動） ・精神機能　・栄養状態　・外皮系　・頭頚部	講義
10	部分のアセスメント	・眼、耳、鼻、口	講義
11	部分のアセスメント	・胸部　呼吸系	講義・演習
12	部分のアセスメント	・腹部　消化系	講義・演習
13	呼吸を楽にする技術	・呼吸のニーズに関するアセスメント ・障害の種類 ・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法 吸入・酸素療法	講義
14	呼吸を楽にする技術の実際	・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法	演習 グループワーク
15	看護を展開する技術 看護記録・報告	・看護記録の機能と法的意義 ・看護記録の様式 ・記録に関する留意事項	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ 医学書院 学研　看護技術プラクティス 学研　フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版)　藤崎　郁 資料
参考資料	ナーシングチャンネル　フィジカルアセスメント
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	39	科目名	フィジカルアセスメントⅡ		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師3名					
授業概要	フィジカルアセスメントⅠの学びを活かし、症状・徴候・身体機能から系統的にフィジカルアセスメント(臨床推論)を行い、必要なケアを判断し、実施する能力(臨床判断能力)を養う					
授業目標	1.症状・徴候からアセスメントをすることができる 2.身体機能別のアセスメントをすることができる 3.患者の状態を判断し、緊急性の有無、必要なケアを考えることができる					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	臨床におけるフィジカルアセスメントの意義	臨床場面を踏まえたフィジカルアセスメントの意義 看護記録の方法の復習 演習の進め方、シミュレーションとは	講義
2 3	症状別に考えるフィジカルアセスメント	1)腹痛を主訴とした患者のフィジカルアセスメント	事前課題 グループワーク 演習(SCENARIO使用)
4 5		2呼吸困難を主訴とした患者のフィジカルアセスメント	
6 7		3)頭痛を主訴とした患者のフィジカルアセスメント	
8 9		4)胸痛を主訴とした患者のフィジカルアセスメント	
10 11		5)発熱を主訴とした患者のフィジカルアセスメント	
12 13		6)下肢の脱力・しびれを主訴とした患者のフィジカルアセスメント	
14 15		症例を通してフィジカルアセスメントの実際を考える 必要なケアを考える まとめ	グループワーク 演習 講義

テキスト	医学書院　全巻
参考資料	ナーシングチャンネル　フィジカルアセスメント ナーシングチャンネル　基礎看護、成人看護
成績評価	終講時試験、事前課題、グループワーク参加度

シラバス番号	40	科目名	生活を整える1		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名					
授業概要	日常生活活動の場である環境を調整する技術を学ぶ。 清潔と衣生活の意義を理解し、清潔援助技術を学ぶ。					
授業目標	1. 環境が人間に与える影響を理解したうえで、環境を調整する技術を習得する。 2. 人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助方法を習得する。 3. 対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な清潔援助技術を習得する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	環境調整技術	・療養生活の環境 ・病室環境のアセスメントと調整 【演習】病床環境の調整	講義 演習
3 4	活動・休息 援助技術 苦痛の緩和・ 安楽の確保 技術	・体位の種類、特徴 ・活動・運動の生理学的メカニズム ・体位と呼吸機能・循環血液量との関係 ・ボディメカニクス ・体位保持（ポジショニング） 【演習】ポジショニング、体位変換	講義 演習
5 6	環境調整技術の実際②	・病床を整える 【演習】ベッドメーキング 臥床患者のリネン交換	演習
7	清潔・衣生活 援助技術の アセスメント	・身体の清潔の意義（生理的・心理的・社会的意義） ・洗浄剤の作用 ・清潔ニーズのアセスメント ・清潔援助方法の選択	講義 グループワーク
8 9	清潔・衣生活援助技術の実際①	【演習】足浴	演習
10 11	環境調整技術 技術チェック	【技術チェック】患者の病床を整える 体位変換、ボディメカニクス、リネン交換含む ※自己学習：廃用症候群	技術チェック
12 13	清潔・衣生活援助技術の実際②	【演習】全身清拭、	演習
14 15	清潔・衣生活援助技術の実際③	【演習】洗髪	演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護技術　プラクティス　　学研
参考資料	ナーシングチャンネル　人体の構造と機能
成績評価	終講時学科試験（30%）、終講時実技試験（70%）

シラバス番号	41	科目名	生活を整える2		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	生活を整えるための、食事・排泄・移動の基本的な援助技術が習得できる					
授業目標	1. 食事の意義を理解し、栄養状態を整えるための食事の援助技術を習得することができる 2. 排泄の意義を理解し、排泄の援助技術の習得することができる 3. 生活していく上で必要な移動技術が習得できる					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	食事のアセスメントと援助方法	1) 食事行動のアセスメント 2) 食事援助の方法	講義
2	食事援助の実際	1) 食事摂取行動とアセスメント	演習
3 4	口腔の清潔援助	1) 口腔ケア	講義 演習
5	排泄援助のアセスメント	1) 排泄援助を受ける対象の理解 2) 排泄行動の自立と阻害する因子 3) 排泄に影響をおよぼす因子 4) 自然排泄を阻害する因子 5) 自然な排泄を促す援助	講義
6 7	排尿・排便の援助	1) 便器・尿器の当て方 2) 陰部洗浄	講義 演習
8	治療的排泄援助技術の理解(浣腸)	1) 浣腸の適応と種類 2) 目的・作用 3) 浣腸の管理	講義
9	治療的排泄援助技術の理解(導尿)	1) 導尿の適応と種類 2) 一時的導尿の方法 3) 持続的導尿の管理	講義
10 11	浣腸の実際	1) 浣腸	演習
12 13	導尿の実際	1) 導尿	演習
14 15	移動の援助	1) 活動・運動のアセスメント 2) 移動・移送の実際 車椅子への移乗・移送 ストレッチャー(ベッド)への移乗・移送	講義 演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護技術プラクティス　学研 資料
参考資料	ナーシングチャンネル　基礎看護・成人看護
成績評価	講義、演習、参加度、および終講時学科試験の総合評価

シラバス番号	42	科目名	臨床看護総論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	2	時間数	60
担当講師	専任教師2名　非常勤講師5名					
授業概要	学んだ知識・技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。 基本的な問題解決過程の習得を目指す。 1年次の統合技術演習として位置づける。					
授業目標	1.健康障害の経過における患者やその家族の特徴と看護について理解する。 2.事例を通して、看護過程を用いて看護展開を行うことができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	臨床看護とは	臨床とは　　臨床看護とは	講義
2 3	健康状態の経過に基づく看護	1.急性期における看護 2.慢性期における看護 3.回復期における看護 4. 終末期における看護	講義 グループワーク
4	主要な症状を示す対象者への看護	1. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護	講義
5		2. 緩和医療	講義
6 7 8 9	麻酔法	1. 麻酔 ・術前管理、術中管理、術後管理 ・全身麻酔、局所麻酔(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔) 2. 呼吸管理(酸素療法、人工換気) 3. 体液・栄養管理(体液管理と輸液、栄養管理) 4. 疼痛管理 ・術後疼痛の基礎 ・術後疼痛が生体に及ぼす影響とその関係 ・術後鎮痛法の適応と利点・欠点 5. 救急医療　(ショック、救急処置)	講義
10 11	手術療法を必要とする患者の看護	1. 術前看護	講義
12 13		2. 術中看護	講義・演習
14 15 16 17		3. 術後看護　①手術後の回復を促進するための看護 ②術後合併症の発生機序と予防・対応 ③術後　回復に向けた援助	講義
18 19 20 21 22	看護過程とは	問題解決過程とは 看護過程のステップ 情報収集、情報の整理 分析、アセスメント 全体像の描写:思考の過程、構造図 看護問題抽出、看護目標、計画立案 実施、評価	講義・演習

回	項目	内容	方法
23 24	対象を理解しよう	事例(データーベース)の情報から患者を理解・イメージ化し、 看護を考える 事例①　胃癌　胃切除術後 事例②　変形性股関節症術後 事例③　前立腺癌　術後 事例④　脳梗塞　回復期 事例⑤　肺癌　化学療法・放射線療法中 事例⑥　多発性骨髄腫　化学療法中 事例⑦　慢性心不全の急性増悪 (事例は変更する可能性あり)	演習
25	情報を整理しよう	各自で考えてきた情報の整理・思考の過程を持ち寄り、 グループワークで深める。援助計画まで、立案する。	個人ワーク グループワーク
26	援助計画を立案してみよう		
27 28	考えた援助を実施してみよう	事例①～⑧の模擬患者演習　観察・コミュニケーション	演習
29 30		事例①～⑧の患者に対し、考えた援助を実施する。 実施した結果どうであったか、考える。	

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 配布資料
成績評価	終講時学科試験、課題レポート 個人で行う演習課題と取り組みの態度、グループワーク参加度、授業態度、出席状態など

シラバス番号	43	科目名	診療の補助技術		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	看護師は、保健師助産師看護師法第5条に示されている「診療の補助業務」として、その行為に対し法的根拠を与えられている。近代、医療が高度化し、医療業務はより複雑化、繁雑化している。そのような中、医療者には医療事故防止対策の強化が強く求められている。医療行為、特に治療・処置には危険が伴うこと、また技術がより進歩することでリスクが高くなることは事実である。看護師が、診療行為に伴う法的立場をふまえて医師の診療の補助を行っていることを認識し、患者が安全・安楽に診療が受けられるように援助する技術の基本と倫理的な態度について学ぶ。					
授業目標	1. 与薬について、その目的・用途・方法を理解する。 2. 与薬のための法的根拠を述べることができる。 3. 与薬を受ける患者への看護援助技術に必要な知識・技術・態度を習得する。 4. 与薬に関わる安全管理のあり方について述べることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	診療の補助とは 診療の過程	1)医療を取り巻く環境と医療者に求められているニーズ 2)診察における看護の役割 診察に過程と診察時の援助	講義
2 3	各種与薬法の手順と看護 薬物療法における看護師の質の保証と安全管理	1)各種与薬法 ①経口与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④点眼法 ⑤点鼻法 ⑥点耳法 ⑦吸入法 ⑧塗布法 ⑨貼付法 2)感染予防 3)リスクマネジメント	グループワーク
4	注射法とは	1)注射法とは 2)注射法で使用する物品 3)注射法の種類と特徴 4)注射法の合併症	講義
5	血管外注射	1)血管外注射 （皮下注射、皮内注射、筋肉内注射）	講義
6	静脈内注射	1)静脈内注射 2)静脈路確保	講義
7	採血	1)採血	講義
8	輸液療法	1)輸液管理 2)輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義
9 10	注射の実際	1)薬剤の準備 2)皮下注射、筋肉内注射 （注射の準備、注射部位の選定、実施、後片付け）	演習
11 12	静脈血採血の実際	1)採血 （採血の準備、採血部位の選定、実施、後片付け）	演習
13 14 15	静脈路確保、輸液管理の実際	1)静脈路確保 2)輸液管理 3)輸液ポンプ、シリンジポンプ	演習

テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
参考資料	ナーシングチャンネル 基礎看護・医療安全
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	44	科目名	看護の実践哲学		科目の区分	専門分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名					
授業概要	実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認する。人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。					
授業目標	実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認できる。 人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。					

授業計画　※i事前課題：春期休暇と保健週間にケーススタディをまとめて提出（2月と4月の事例）

回	項目	内容	方法
1	ガイダンス 「知っている」とは 1）認識の構造 2)看護倫理について	シラバスの説明　「看護の実践哲学」学び方 「知っている」とはどういうことかを認識論を用いて学習する 具体・抽象・構造 「実習で体験したもやもや事例」次回レポート提出	講義 演習
2	体験から学ぶ （その1）	臨地実習でそれぞれが体験した「ヒヤリハット事例」を共有し、看護師として備える知識・技術・態度を考える 実習での体験を踏まえて「看護の本質」について考える ＊事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 4月
3	「看護倫理」について	臨地実習体験事例を用いて、「看護倫理」について学習する 「実習で体験したもやもや事例」を共有して要因と対策を共有する 「4ステップモデル」を理解し、グループワークで体験する	講義 演習
4	体験から学ぶ （その2）	臨地実習でそれぞれが体験した「ヒヤリハット事例」を共有し、看護師として備える知識・技術・態度を考える 前回検討した事例の共有を活かしての関わり事例紹介により、実習での体験を踏まえて「看護の本質とレジリエンス」について考える ＊事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 5月
5	「看護倫理」について	看護倫理グループワーク発表	講義 演習
6	ケーススタディについて	ケーススタディについて 臨地実習の体験を、ケーススタディにまとめることによって、リフレクションする方法を学ぶ	講義 演習
7	体験リフレクション （その1）	2年生後期で学習したクリティークの方法を用いて前年度のケーススタディをグループごとにクリティークを実施して自分たちが取り組む方向性を認識する	講義 演習
8	体験リフレクション （その2）	臨地実習の体験を、グループでリフレクションし体験を共有しながら、ケーススタディをまとめる	講義 演習
9	体験から学ぶ （その3）	臨地実習体験をテーマに沿って各グループ2名発表し、各テーマ、「看護の本質」について考える 例：自立・退院に向けた看護・発達段階・周術期の患者の看護など ＊事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 7月
10	ジェンダーと看護	「ジェンダー」について、グループで学ぶ	講義 演習
11	現在の医療の動向について	「特定行為に係る看護師の研修制度」等について、グループで学ぶ	講義 演習
12 13 14 15	体験リフレクション （その3）	ケーススタディを発表する ＊ケーススタディの発表を聞き、「自己評価」「他者評価」実施する ケーススタディを評価する ＊評価表に沿って評価した内容をもとに各自ケーススタディをリフレクションし、自己の課題を明確にする ＊ケーススタディ完成版提出・「ケーススタディでの学び」をレポート提出	演習(発表) 8月 30日

テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[1]　看護学概論　　別巻　看護研究 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社
参考教材	関西看護学生看護研究大会冊子　　看護職の倫理綱領
成績評価	課題レポート　ケーススタディ　授業・演習への参加度

シラバス番号	45	科目名	EBNの実践		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	Evidence-Based Nursing（EBN）を実践するための3つの「つ」、すなわち「つかう」「つくる」「つたえる」について学修する。本科目は3年次の「看護実践の哲学」に通ずる学修内容となっている。					
授業目標	1.Evidence-Based Nursing（EBN）の考え方が出現してきた背景とその意義について理解する。 2.Evidenceの使い方について理解する。 3. Evidenceを使う際に必要な文献critiqueの方法について理解する。 4.Evidenceの作り方について理解する。 5. Evidenceを作るためのプロセス（研究計画の立案、データ収集、分析評価、論文 作成）について理解する。 6.研究における倫理について理解し、研究者の行うべきことがらを理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	EBN概説	1)EBNの考え方が出現してきた背景とその意義 2)Evidenceの水準 3)EBNの手順	講義 グループワーク
2	Evidenceの作り方	1)Evidenceを作るための手法（量的・質的・ミックス法） 2)研究と倫理	発表
3	研究手法	研究成果と研究手法	講義 演習
4	Evidenceの使い方	1）「Evidence」を作るとは 2）文献検索（医中誌、MEDLINE）、文献収集方法	PCを用いた演習
5 6	文献critique	1）文献critiqueとは 2）文献critiqueの方法 3）文献critiqueの実際	既存の文献を用いて
7	計画書について	1）動機／疑問から研究課題（テーマの絞り込み） 2）方法の選択 3）計画書の例	講義
8 9 10 11	計画書の作成	5人程度でのグループワーク	グループワーク
12 13 14	計画書の発表とcritique	全グループの発表と他グループからのcritique	発表 critique
15	まとめ	テキストをもとに	講義
テキスト	オリジナルテキスト（1年次の「思考のレッスン」で購入済）		
成績評価	終講時学科試験、グループワークへの参加度、発表内容等により総合的に評価		

シラバス番号	46	科目名	地域・在宅看護論の概論		科目の区分	統合分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名　非常勤講師3名					
授業概要	在宅看護の特徴を学ぶ。 住み慣れた生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する。 在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ。					
授業目標	1.在宅看護の提供される場の広がりから将来の方向性やその目的を考察する 2.住み慣れた地域の生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する 3.在宅看護の対象者の住まい方と健康な生活との関連を理解する 4.事例を通して多職種と連携した地域での療養のあり方を創造的に検討しイメージする 5.看護過程の展開ポイントを理解し展開方法について学ぶ 6.在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	序章：地域のなかでの暮らしと健康・看護 第1章：人々の暮らしと地域・在宅看護	序章：地域のなかでの暮らしと健康・看護 第1章：人々の暮らしと地域・在宅看護 P25～演習	講義 演習
2		P25～演習「暮らしを理解する」発表 在宅看護に求められる役割	講義 演習
3	第2章：暮らしの基盤としての地域の理解	第2章：暮らしの基盤としての地域の理解 p51～演習	講義 演習
4	在宅場面での倫理事例	p51～演習「地域を理解する」発表 在宅場面での倫理事例　GW 看護者の倫理綱領の視点・倫理的4分割法で分析	演習 講義
5		在宅場面での倫理事例　発表 療養者と家族の権利を守るためには	演習 講義
6	第6章：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	第6章：介護保険制度　p164～ 介護保険について	講義
7 8	第6章：ケアマネジメントと社会資源の活用 1）ケアマネジメントの実際	ケアマネジメントと社会資源の活用　p197～ 在宅ケアにおける関係機関・関係職種の連携・協働 地域包括ケアシステムと在宅ケア ケアプラン作成	講義 演習
9	第3章：地域・在宅看護の対象	対象者の特徴　p58～ 家族の理解　p75～ 家族のとらえかたと看護師のかかわり 家族のアセスメント 家族への支援 地域システムの視点から家族を支える 演習「家族を理解する」	講義 演習
10	第4章：地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える看護　p104～ 環境を整える看護 看護の対象と提供方法　p110～ ライフステージに応じた看護　p177～	講義 事例を通して
11	第6章 訪問看護制度の創設と発展経緯	訪問看護制度　p183～ 関連する法令 訪問看護の制度 訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用 地域における多職種連携	講義 事例を通して

回	項目	内容	方法
12	第4章 暮らしにおけるリスクの理解 災害対策	暮らしにおけるリスクの理解・種類 安全に暮らし続けるための援助 災害への事前の備え・災害時の避難 災害対策における在宅看護	講義 事例を通して
13	第5章：在宅看護実践の場と連携	在宅看護における看護実践の場 在宅看護にける多職種連携 看護支援専門員との連携 多職種連携からのネットワークづくり	講義 事例を通して
14	第6章 地域保健にかかわる法制度 1）障害者総合支援法	地域保健にかかわる法制度　p200～ 高齢者に関する法制度　p202～	講義
15	2）難病法 3）医療介護総合確保推進法 4）おもな公費負担医療	障害者・難病に関する法制度　p204～ 公費負担医療に関する法制度　p207 権利保障に関連する制度　p208～	講義

予習・復習用

ナーシングチャンネル「映像で感じ、考える、これからの在宅看護（全5巻）」

※保健週間明けまでに視聴し、印象に残った内容について要約と感想をレポート提出（1巻あたり200～400字程度で）

テキスト	系統看護学講座　地域・在宅看護論①　医学書院
成績評価	終講時学科試験　演習への参加度　提出物の内容

シラバス番号	47	科目名	地域・在宅における健康生活支援		科目の区分	専門分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名　他健康生活支援講習指導員2名					
授業概要	在宅療養者と家族の生活や価値観を尊重した上で、生活を支援することを学ぶ。 在宅療養者と家族の生活行動についてアセスメントする能力を身につけ、自立を目指した援助が出来る基礎的能力を身につける。					
授業目標	1.高齢者の健康と安全について理解する。 2.地域における支援活動について理解する。 3.日常生活における介護を学び、実践することができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	赤十字健康生活支援講習	在宅における生活支援とは 高齢者の健康と安全 健康な高齢者をめざして	講義 演習
2		高齢期の理解 高齢者に起こりやすい事故の予防と手当、急病への対応	
3		地域における支援活動 支援活動について	
4		地域における高齢者の理解 地域包括ケアシステム	
5 6		支援活動にあたって ともに楽しいひとときを 外出、散歩に誘いましょう 地域を支えるネットワーク	
7		日常生活における介護 介護にあたって 地域包括支援センターの業務	
8		居室の環境　移動 車椅子への移動動作	
9 10		食事　排泄　着替え　清潔 認知症高齢者への対応 人生のエンディングを考える 介護者の健康管理 癒しのハンドケア	講義 演習
11 12 13	事例で考えてみよう 訪問看護に行こう	脳卒中後遺症のある患者 安全な環境とは　安楽な身体の清潔の援助とは 安全な移動方法とは　食事について 実際の援助場面を設定し、演習をする どのような援助が必要か考えてみよう。 どのような物品が必要か考えてみよう。 援助を行ってみよう。	グループワーク 事例で考える 演習
14 15	まとめ	まとめ　発表	グループワーク 発表
テキスト	赤十字健康生活支援講習の教本 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院		
成績評価	終講時学科試験　講義・演習・グループワークへの参加		

シラバス番号	48	科目名	地域での生活を支える看護技術	科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名				
授業概要	在宅で必要な生活を整える技術について学ぶ。 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。				
授業目標	1.在宅での食の援助について理解する。 2.在宅での排泄の援助について理解する。 3.在宅での呼吸の援助について理解する。 4.在宅を支える災害対策について理解する。 5.在宅療養を支える看護技術について理解する。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	在宅看護の特徴	看護師のアセスメント能力	講義
2	食の援助	「食べる」ことに関するアセスメント	
3 4	経口摂取できない場合の栄養摂取について	経管栄養法　PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について 経管栄養法　PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について	講義 演習
5・6		経管栄養法、栄養剤　講義・演習	講義・演習
7	排泄の援助	排泄の生理　摘便	講義
8		摘便の方法	演習
9		透析療法時の看護 血液透析・腹膜透析の原理	講義
10	呼吸の援助	呼吸のアセスメント 口腔内・気管内吸引	講義
11		気管切開　気管カニューレ　吸引	演習
12		在宅人工呼吸療法(HMV)について	講義・演習
13		在宅酸素療法(HOT)	講義・演習
14	在宅を支える災害対策	在宅療養における災害対策	グループワーク
15	療養を支える看護技術とは	意義と目的　まとめ	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論1　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論2　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学2　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学3　医学書院 ナーシングチャンネル　基礎看護
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	49	科目名	地域での生活を支える看護実践		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教員2名　非常勤講師1名					
授業概要	地域・在宅看護論として、「地域の生活を知る」、「地域の看護を知る」、「地域・在宅看護論の概論」、「地域での生活を支える看護技術」、「地域・在宅における健康生活支援」の科目を通して、地域における看護の知識と技術を習得している。本科目では、地域で生活する療養者の療養先に訪問し看護援助を展開するロールプレイのシナリオ作成、技術演習、発表を通して療養者や家族、そしてサービス提供者の立場を模擬体験する。地域での自助、互助、共助のあり方について考え、今後の地域での生活を支える看護実践を展望したうえで領域別実習を展開し、地域・在宅看護論実習に備える。					
授業目標	1.地域で生活を継続させていくために必要なサービスを知り、活用する 2.訪問にに展開する看護技術の習得を図る 3.事例をグループワークで模擬体験しながら、疾病を持ちながら在宅療養を継続する療養者や家族に訪問看護の場面をシナリオを作成しながら学ぶ。 4.ロールプレイによる患者・家族・訪問看護師等の模擬体験より主体的に在宅療養者の看護について学びを深める。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	地域・在宅看護 の取組 訪問看護の実際	シラバス確認 地域包括ケアシステムにおけるセルフマネジメント力の向上とは 訪問看護の実際について ホームホスピスの実際について 本授業においてのグループワークの展開について	講義 先駆的事業 紹介
2	事例で考える	事例に基づき、訪問看護のシナリオを作成する 1)病態を理解し、事例の構造図を作成する 2)プロファイル作成 3)訪問時の状況設定を作成する 4)提供する看護援助を選択する	演習 6事例に分かれて グループワーク
3	事例で考える	事例に基づき、訪問看護のシナリオを作成する 1)病態を理解し、事例の構造図を作成する 2)プロファイル作成 3)訪問時の状況設定を作成する 4)提供する看護援助を選択する	1)から4)発表 3グループずつに 分かれて共有する。
4	事例で考える	5)看護計画に沿った訪問看護のシナリオを作成し実施する ・呼吸器管理、気管内吸引、口腔ケア、経腸栄養 ・食事の援助、コミュニケーション、外出時の援助 ・排泄の援助、清潔の援助(入浴・熱布浴・手浴・足浴など) ・家族の援助、レスパイトケア、多職種との連携	技術演習
5	訪問看護の実践	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施　裏面に続く	ロールプレイ 1-3G
6	訪問看護の実践	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も 入力する。	ロールプレイ 4-6G 評価表に沿って 自己・他者評価

7	振り返り	自己評価・他者評価からの学び 演習を通して学んだ訪問看護師として大切にしていくこと	講義 グループワーク
8	まとめ	演習を通して学んだこと・振り返り・意見交換 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点を伝える	まとめの発表
	提出物	事後課題 各グループの訪問看護実習記録・構造図・シナリオ 自己・他者・総括評価提出 課題レポート 「訪問看護演習を通して学んだこと」	 月　日提出 月　日提出

テキスト	系統看護学講座　地域・在宅看護論②　医学書院　DVD「在宅看護ケーススタディ（全3巻）」
成績評価	終講時学科試験　演習への参加度　提出物の内容

シラバス番号	50	科目名	地域の生活を知る		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師2名					
授業概要	地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために、自分の暮らす地域を知り、地域・在宅看護論の対象を理解する。					
授業目標	1.暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2.自分の地域の暮らしを知る。 3.地域・在宅看護論の対象を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。	暮らすということはどういうことか	講義
2 3	自分の地域の暮らしを知る	自分が住んでいる地域の特徴について知る 自分の地域で暮らす健康な人の生活や健康管理について知る	身近な人にインタビューをした内容を元にグループワーク
4 5 6 7	地域・在宅看護論の対象を理解する	地域・在宅看護論の対象を知る ＊地域に暮らしている人々にインタビューをする ・どのような人々がどのような暮らしを送っているのか ・どのようなライフステージがあるのか ・健康課題はあるのか ・どのように人と人とが支え合って生きているか ・地域の生活環境がどのように健康に影響を与えているか 上記の内容を知ることができるようにインタビューの内容を考え、実施する。	学生自身で訪問の交渉をする
8		インタビューした内容をまとめて、発表する	

テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論1　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論2　医学書院
成績評価	グループワークの参加度　レポート

シラバス番号	51	科目名	地域の看護を知る		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師2名					
授業概要	地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために、自分の暮らす地域を知り、 地域・在宅看護論の対象を理解する。 地域包括ケアシステムの意義と概念を学ぶ。					
授業目標	地域で療養しながら暮らす人々を知る。 看護が提供される多様な場を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	地域包括ケアシステムの意義と概念について	地域包括ケアについて 地域包括ケアシステムについて 自助・互助・共助・公助	講義
2 3 4 5 6 7	地域で療養しながら暮らす人々を知る	看護が提供される多様な場に訪問し、看護の実際、看護の役割を調べる 地域での看護の役割についても考える 診療所 訪問看護 公衆衛生看護　保健師(行政・産業・学校・養護教諭) 小規模多機能 地域包括支援センター 介護施設、老健施設など 訪問し、インタビューした後、整理する	演習
8		訪問して、まとめた内容を発表する。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　医学書院		
成績評価	グループワークの参加度　レポート		

シラバス番号	52	科目名	成人看護学の概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名					
授業概要	成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性を理解し、健康問題・健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護を学ぶ					
授業目標	1. 成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性について理解する 2. 成人期にある人の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する 3. 成人各期の健康問題を知り、健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護について理解する 4. 成人保健の動向と対策、保健活動について理解する 5. 成人看護学に活用される理論について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	大人であるということ	・大人になること ・大人であること ・発達段階、発達課題	講義 GW
2	各段階の特徴	・エリクソンの発達理論 ・青年期 身体の発達、心理・社会的発達 発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ	講義
3	各段階の特徴	・壮年期 身体の発達、心理・社会的発達 発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ ・向老期の特徴 身体的、心理・社会的発達 老年期への移行	講義
4・5	成人期の生活と健康 成人への看護アプローチ ストレスと健康生活	・就労、労働形態 ・飲酒、喫煙 ・運動不足、肥満 ・成人への看護アプローチ ・ストレス関連疾患の予防と対策 ストレスとは ストレスとその対処 ストレスマネジメントと健康生活	講義
6		・薬物乱用防止	講話
7	ヘルスプロモーションと看護	・ヘルスプロモーションとは ・予防のレベル ・ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	講義
8・9	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 （急性期）	・健康の旧壁な破綻 ・急性期にある人が受ける医療 ・危機とは ・危機介入 ・フィンクの危機モデルを活用した危機介入	講義
10・11	慢性疾患とともに生きる人を支える看護	・慢性疾患の特徴 ・慢性疾患をもつ人の特徴 ・病みの軌跡 ・慢性疾患とともに生きる人を支える	講義
12	障害がある人の生活	・障害とは ・障害がある人の認識過程 ・聴覚障害がある人の生活とコミュニケーション	講義
13	人生の最後のときを支える看護	・人生の最後のときを過ごしている人の理解 ・死の受容過程　E・キューブラー・ロス ・人生の最後のときを支える看護師の役割と機能 ・アドバンスケアプランニング	講義

14	まとめ	成人期の看護の特徴をGWでまとめる	GW
15	まとめ	各グループ発表	発表

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学1　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　成人看護
成績評価	まとめGW発表（10点）、終講時試験

シラバス番号	53	科目名	健康危機状況		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名　専任教師1名					
授業概要	成人が極めて深刻なセルフケア困難に陥っているときの看護を学ぶ					
授業目標	1. 健康危機状況にある成人を理解する 2. 健康危機状況と看護の特徴を理解する 3. 家族および重要他者の不安や負担への対応を学ぶ 4. クリティカルな患者の病態の理解と看護を学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法	
1 2	健康を脅かす要因と看護	1)成人にとっての健康とは 2)成人にとっての危機とは ・生命の危機状態 ・急性期にある人が受ける医療	講義 グループワーク	
3	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	1)急性期にある人の特徴 2)危機モデルを活用した危機介入	講義 グループワーク	
4 5 6 7	急性期の治療過程にある患者の看護	1)手術療法を受ける患者の看護 2)手術室における看護の展開 ・入室前～退室後の看護 ・麻酔導入時の看護 ・挿管時の看護 3)輸血を受ける患者の看護	講義 演習	
8	クリティカルケア看護とは	1)クリティカル看護の特性 2)クリティカルケアを必要とする患者・家族の特性 3)クリティカルケア看護とチーム医療	講義 グループワーク	
9	クリティカルにある患者の病態の理解と看護	1)手術侵襲について	講義 事例演習	
10		2)術前・術後のアセスメントと看護		
11 12	クリティカルにある患者の看護の実際	3) クリティカル看護の実際 ・人工呼吸器装着患者の看護		
13 14		4)ICU・CCU入室患者の看護の実際 ・食道癌の手術前後の看護		
15		5)緊急入院時の看護の実際 ・急性心筋梗塞		

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　成人看護
成績評価	講義終了後に試験

シラバス番号	54	科目名	セルフケアの再構築		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師4名					
授業概要	急激な健康破綻に陥った人の看護を学ぶ					
授業目標	1.急激な健康破綻に陥った人の状況と心身の苦痛について理解する。 2.急激な健康破綻に陥った人の看護の特徴を理解する。 3.患者や家族の苦悩、その特徴を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	1.健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	健康の急激な破綻 生命の危機状態 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護 危機にある人々への支援 合併症の予防 健康破綻から回復する看護 家族の看護 療養の場を移行する人々への看護技術	講義
3	2.治療過程にある患者への看護技術	その人らしい日常生活再構築のための看護技術 大腸癌の事例	講義
4 5 6	3.急性期の患者の看護	クモ膜下出血の患者の看護 脳梗塞の患者の看護 脳出血の患者の看護	講義
7 8		脊髄を損傷した人の看護	講義
9 10	4.療養の場を移行する人々への看護技術	療養の場の移行支援とはどのような活動か 療養の場の移行支援が必要とされる理由 療養の場の移行支援の具体的方法 退院後の支援	講義
11 12 13 14 15	5.障がいがある人の生活とリハビリテーション	1)リハビリテーション概論 2)運動器系の障害とリハビリテーション看護 3)中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1)脳血管障害 (2)脊椎損傷 4)呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション	講義 演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学1　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　成人看護学7　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度3　医学書院 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　　医学書院
成績評価	終講時学科試験　参加度

シラバス番号	55	科目名	セルフマネジメント	科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名　専任教師1名				
授業概要	慢性的な病を持った人がシンプトン・マネジメント(自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法)とサイン・マネジメント(客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法)を獲得していく過程の看護を学ぶ。				
授業目標	1. 慢性疾患患者のセルフケア・セルフマネジメントの必要性について理解し、その支援方法を学ぶ。 2. 慢性疾患患者に対する災害看護について学ぶ。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護におけるマネジメント～セルフマネジメントの過程～	1)対象理解 2)病みの軌跡	講義
2	慢性病との共存を支える看護の実践	1)セルフケアとセルフマネジメント 2)セルフマネジメントのための対象理解	
3		3)成人教育学 (1)成人教育学(アンドラゴジー参照) (2)エンパワメントモデル (3)自己効力感	
4	疾患の理解と看護	1)糖尿病 (1)疾患の概要 (2)分類・診断基準 (3)検査、治療 食事療法・薬物療法・運動療法 自己血糖測定	講義
5 6 7		(4)糖尿病の症状 (5)糖尿病の慢性合併症・急性合併症 (6)糖尿病患者の看護	
8		糖尿病患者に対する災害時の療養生活への影響 災害への備え、看護	
9		2)呼吸器疾患 (1)医療の動向と看護　(2)患者の特徴　(3)看護の役割	講義
10		(4)呼吸不全の病態生理 (5)気管支喘息の病態生理と看護	
11		(6)慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の経過と看護 安定期・急性増悪期・終末期の看護	
12		3)呼吸不全患者のセルフマネジメントについての事例検討	GW
13		3)呼吸不全患者のセルフマネジメントについての事例検討 発表	GW発表
	慢性疾患患者に対する災害看護	1)慢性疾患患者に対する災害看護	講義
14		2)慢性呼吸器疾患患者の災害時の対応について(帝人)	講義
15		3)慢性閉塞性肺疾患患者の災害時の対応　GW	GW
16		3)慢性閉塞性肺疾患患者の災害時の対応 GW発表・まとめ	GW発表 講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学1　医学書院 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　成人看護学6　医学書院 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　成人看護学2　医学書院 系統看護学講座　専門分野　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践3　医学書院
成績評価	グループワーク発表・終講時学科試験・参加度

シラバス番号	56	科目名	緩和ケア		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	人間が存在し生きるという過程を、患者や家族のQOLという視点から捉え、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学び、死後のケア、遺族への関わりについて理解する。また、苦しみに寄り添う医療者自身のケアについて理解する。					
授業目標	1. 緩和ケアの歴史と発展について学ぶ。 2. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義について学ぶ。 3. 緩和ケアにおけるコミュニケーションの種類や基本的なスキルについて学ぶ。 4. 緩和ケアの臨床における意思決定支援について理解する。 5. 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を理解し、アセスメント、ケアについて学ぶ。 6. 小児・AYA世代・高齢者・様々な疾患における緩和ケアの広がりを学ぶ。 7. 臨死期の概念とそのケアの目標を理解し、全人的苦痛の緩和、死亡前後や急変時のケアについて学ぶ。 8. 緩和ケアにおける家族看護過程、グリーフと遺族ケアについて学ぶ。 9. 医療者のストレス要因とそれによって引き起こされる状態を理解し、対処能力やケアについて理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	緩和ケアの現状と展望	1)緩和ケアの歴史と理念 2)全人的苦痛について事例検討 「若年乳がん終末期の患者」	講義
2	緩和ケアの チームアプローチ	1)チームアプローチの意義 2)事例 「チームアプローチを考える」	
3	緩和ケアにおける コミュニケーション	1)コミュニケーションの基礎知識　意義　スキルとプログラム 2)事例 「コミュニケーションを考える」	
4	緩和ケアの広がり	ライフサイクルにおける広がり	講義
5		様々な疾患における広がり　悪性疾患	
6		様々な疾患における広がり　悪性疾患以外	
7	全人的ケアの実践	身体的ケア	
8		心理的ケア	
9		社会的ケア	講義
10		スピリチュアルペイン	
11	緩和ケアにおける 倫理的課題	1)意思決定支援　アドバンス・ケア・プランニング 2)臨床で直面する倫理的課題	
12	臨死期のケア	1)臨死期の概念とケアの目標 2)臨死期の全人的苦痛の緩和 3)看取り期、死亡後のケア	
13	家族のケア	1)家族とは　家族ケアの方法 2)グリーフケアと遺族ケア	
14	映画「エンディングノート」	DVD鑑賞	講義
15	医療スタッフのケア	1)ストレスマネジメント 2)マインドフルネス	
すべての回で事例を通して考える機会を作る			
テキスト	系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院		
成績評価	終講時学科試験・参加度		

シラバス番号	57	科目名	がん看護		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	がんとがん患者の特徴、治療についての知識を深め、患者にとって化学療法を行う意義を考えながら、 安全安楽に治療が受けられるように、患者・家族を支援する看護を学ぶ。					
授業目標	1. 我が国におけるがんを取り巻く状況を理解する。 2. がんの病態と臨床経過について理解する。 3. がん患者の苦痛を理解し、それに対する支援やマネジメントの方法について学ぶ。 4. 手術療法、薬物療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療について理解する。 5. がん治療に対する看護について学ぶ。 6. 外来におけるがん患者の療養支援について学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.がん医療の現在と看護 2.がんの病態と臨床経過	1)がんを取り巻く状況 2)がんについて知る 3)エビデンスに基づく看護実践 1)がんの病態 2)がん患者の臨床経過	講義
2	3.がん患者の看護	1)苦痛に対するマネジメント 2)心理的サポート 3)症状マネジメント	
3	3.がん患者の看護 4.がん治療に対する看護	4)予防と早期発見 1)手術療法と集学的治療 2)放射線治療の看護	
4	5.がん治療の場と看護	1)外来がん看護 2)がん患者の療養支援	
5	化学療法 1.がんと化学療法	1)化学療法の適応・目的 2)化学療法と手術療法との関係 3)化学療法と放射線療法との関係 4)化学療法の効果・副作用・有効性 5)抗がん剤の作用機序 6)最近の化学療法のキーワード 7)外来化学療法室	講義
6	2.化学療法看護を受ける患者への看護 3.抗がん剤の取り扱い	1)抗がん剤投与時に考慮すべき因子 2)抗がん剤治療のプロセス 3)抗がん剤の副作用のマネジメント 4)患者・家族への教育的支援 5)治療後の看護 1)ケミカルハザード	
7	乳がん患者のセルフマネジメント事例	1)疾患、分類、検査、診断 2)治療 化学療法、内分泌療法、手術療法、放射線療法	講義
8		3)看護ケア	

テキスト	系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院 系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ 女性生殖器　医学書院
成績評価	終講時学科試験・参加度

シラバス番号	58	科目名	老年看護学の概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	高齢者の特徴とその健康生活、加齢に伴う変化と生活適応を阻害する諸要因について理解する。 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響、保健医療福祉について理解する。 老年看護のあり方について考察する。					
授業目標	1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴(身体的・精神的・社会的)とその健康生活を理解する。 2. 加齢に伴う変化と老年期にある人々の生活適応を阻害する諸要因について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。 3. 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する。 4. 老年期に対する保健医療福祉の動向と対策(活動)について理解する。 5. 自分自身の老年観を言語化(客観視)し、洞察する。 6. 老年看護の実践の核となる看護倫理について考え、自己の倫理観を涵養する。 7. 老年期の生活の質を保障する老年看護のあり方について考察する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ライフサイクルから見た老年期	・自己の老年観とエイジズム ・「老人・高齢者」(老年期)の定義 ・エイジング(aging)とサクセスフルエイジング ・「ある高齢患者の入院体験記」を読んでdiscussion	講義
2	老年期の発達と成熟	・老年期の発達課題 ・老年各期(前期高齢者・後期高齢者)の特徴	祖父母へのインタビューの内容をもとにして
3	加齢に伴う変化①	・加齢に伴う変化の特徴 ・身体的機能の変化 (内臓機能の変化、運動・体力の変化、 感覚・知覚の変化) ・心理・精神的機能の変化 ・人格と尊厳 ・喪失体験	
4	加齢に伴う変化②	・社会的機能の変化 ・霊的変化	
	高齢者の健康①	・健康状態の多様性 ・helthy-wellness	
5	高齢者の健康②	・高齢者の健康問題	
	高齢者の生活史	・高齢者の生活史 ・価値観の多様性 ・生活習慣・生活様式の多様性 ・QOL	
	高齢者と家族	・高齢者と家族のライフサイクル ・家族構成の変化 ・家族形態の変遷 ・高齢者と家族の人間関係 ・老老介護	
6 7	高齢者の人権擁護と老年看護における倫理的課題	・人権とは ・高齢者虐待(エイジズムとの関連) ・弱者の側面から見た高齢者と看護アドボケイト(擁護者)の意義 ・人権を尊重した看護活動の観点 ①擁護者としての看護の役割 ②高齢者と看護者による共同意思決定 ③医療サービスを受ける高齢者の満足感 ・高齢者虐待	講義

回	項目	内容	方法
8 9	老年看護の実践と リフレクション	・「QOLって何だろう」「ユマニチュード」「パーソンセンタードケア」 をもとにしたdiscussion	discussion
10	襁褓をあてることの是非 （ディベート）	・襁褓肯定派と襁褓否定派に分かれてディベートを実施し、 襁褓をあてることの問題について理解を深めるとともに、 老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
11	離床センサー設置の是非 （ディベート）	・離床センサー肯定派と離床センサー否定派に分かれてディベートを実施し、離床センサー設置の問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
12 13	高齢者の健康問題と介護	・テレビドラマ「恍惚の人」の鑑賞 ・「恍惚の人」を見て、老年看護のあり方についてdiscussion ・老年看護のkeyword：「支える」	DVD視聴 discussion
14 15	これからの老年看護 まとめ	・「まずはケアの話から始めよう」の内容と、これまでの講義で学習した内容を総合して、老年看護の　あり方について考察する	discussion

テキスト	①北川公子、他：系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学、医学書院 ②厚生統計協会：国民衛生の動向 ③オリジナルテキスト（前期の「思考のレッスン」で購入済） ④小林 亜津子：QOLって何だろう．ちくまプリマー新書、2018. ⑤山﨑勢津子：まずはケアの話から始めよう．ゆみる出版、2019.（別途購入）
成績評価	終講時学科試験、ディベート内容、授業へのコミットメント等により総合的に評価

シラバス番号	59	科目名	高齢者のセルフケア支援		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	高齢者の特徴とそれに伴う健康上の諸問題と動向を知り、対象に応じた看護を行う基礎的能力を養う。					
授業目標	1. 高齢者の特徴を理解する。 2. 高齢者看護の特性を理解する。 3. 高齢者のヘルスアセスメントの基本を習得できる。 4. 高齢者のリスクマネジメントの基本を理解する。 5. 高齢者の生活機能を整える看護を学ぶ。 6. 高齢者のエンドオブライフケアを考える。 7. 高齢者のヘルスプロモーションを考える。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	老いるということ	高齢者体験	演習 課題レポート
2	老いるということ	老年看護の理念 ・生活志向の看護 ・生理的・精神的・社会的ニーズを満たす生活への援助 高齢者の特性からみた高齢者看護	講義
3	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本 ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者総合機能評価（CGA）	
4	高齢者のヘルスアセスメント	身体の加齢変化とアセスメント ①皮膚　②視聴覚　③循環系　④呼吸器系　⑤消化器系 ⑥ホルモンの分泌　⑦泌尿生殖器　⑧運動系	
5	高齢者のリスクマネジメント	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全、救命救急 高齢者と災害	
6	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活	講義
7 8 9 10	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動 排泄、清潔・入浴、生活リズム コミュニケーション	講義 グループワーク
11	高齢者の生活機能を整える看護	住まい　経済状況　社会状況	講義
12	高齢者の生活機能を整える看護	排泄ケアの特徴 おむつの歴史、おむつがもたらす弊害 おむつ交換	講義 演習
13	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生きる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	講義
14	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション	講義
15	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者とレクリエーション	演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
成績評価	参加度、終講時学科試験

シラバス番号	60	科目名	健康障害を持つ高齢者の看護	科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期	単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名　専任教師2名				
授業概要	老年期にある健康障害の特徴、診断治療過程における看護の基礎について学ぶ。				
授業目標	1. 高齢者に多い疾患・障害に対する看護を学ぶ。 2. 認知機能障害のある高齢者の看護を学ぶ。 3. 治療を受ける高齢者の看護を学ぶ。 4. 高齢者を介護する家族への看護を学ぶ。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	疾患・障害に対する看護	老年症候群 脱水・浮腫	講義
2		痛み しびれ	
3		転倒・骨折、骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル	講義
4		パーキンソン病、パーキンソン症候群	
5		瘙痒（かゆみ） 老人性皮膚瘙痒症、疥癬	
6		高齢者に多い主な感染症 肺炎・誤嚥性肺炎、感染性胃腸炎など 高齢者とがん	
7	認知機能障害のある高齢者の看護	うつ うつとは 高齢者のうつの背景と特徴、援助	講義
8		せん妄 せん妄とは 高齢者のせん妄の特徴と予防、援助	
9 10 11		認知症 認知症の定義・症状 四大認知症とその看護 アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症、脳血管性認知症 認知症の診断、認知機能の評価	
12	薬物療法を受ける高齢者の看護	加齢に伴う薬物動態の変化 高齢者に多い薬物有害事象・ポリファーマシー 薬物療法における援助・服薬管理	講義
13 14	入院治療を受ける高齢者の看護	診察・検査・手術を受ける高齢者の看護 入院から退院までの支援 リハビリテーション	
15	高齢者を介護する家族の看護	介護家族の生活と健康 家族への援助	

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　老年看護
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	61	科目名	老年看護の実践		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	高齢者の身体的課題を精神的・心理的側面との関連性を明らかにしながら、看護に必要なアセスメント能力を養う。					
授業目標	1. 疾患や障害を持つ高齢者に対し、生活機能の視点から看護に必要なアセスメント能力を養う。 2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。 3. 患者・家族の自己管理およびセルフケア支援の方法を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	褥瘡・スキン-テアの看護	・褥瘡とは、リスクアセスメント ・スキン-テア、スキンケア ・ブレーデンスケール、OHスケール ・褥瘡の治療・分類 ・褥瘡の評価、DESIGN-R2020 ・ポジショニング、体位変換	講義
4 5	排泄障害の看護	・排尿障害のアセスメントとケア ・ポジショニング	講義 演習
6	排泄障害の看護	・排便障害のアセスメントとケア	講義
7	ストーマ造設患者の看護	・ストーマの分類 消化管ストーマ 尿路ストーマ ・ストーマ造設時の看護 術前のアセスメント ストーマサイト-マーキング ストーマ管理	講義
8	ストーマ造設患者の看護	・ストーマケア	演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎・泌尿器　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　皮膚　医学書院
成績評価	参加度、終講時学科試験

シラバス番号	62	科目名	小児看護学の概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次　後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名　専任教師1名					
授業概要	小児を取り巻く社会環境の変化、子どもの権利・人権について学び、看護の役割について学習する					
授業目標	1. 小児看護の対象としてのこどもを理解する 2. 小児看護を取り巻く環境、関連する諸統計を理解する 3. 小児医療や小児看護の変遷について理解する 4. 小児看護における倫理を理解する 5. 健康問題が子どもや家族に与える影響を理解することができる					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3 4	小児看護の特徴と理念	1) 小児看護の目ざすところ ・小児看護の対象 ・小児看護の目標と役割 2) 小児と家族の諸統計 ・わが国の人口構造 ・出生と家族 ・子どもの死亡 3) 小児看護の変遷 ・児童観、育児観、小児医療の変遷 ・現代の小児看護 4) 小児看護における倫理 ・子どもの権利 ・医療現場でおこりやすい問題点と看護 5) 小児看護の課題 ・疾病構造の変化と小児看護 ・社会変化と小児看護 ・小児看護の専門分化	DVD鑑賞 グループワーク 講義
5 6	障害のある子どもと家族の看護	1) 障害のとらえ方 ・障害についての考え方 ・障害の原因、背景因子との相互作用 2) 障害のある子どもと家族の特徴 ・障害のある子どものニーズ ・障害のある子どもの家族のニーズ	講義 グループワーク
7		3) 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義
8		・障害のある子どもと家族への援助の基本的な考え方 ・チームアプローチ	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学1　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　小児看護
成績評価	終講時学科試験・レポート・参加度

シラバス番号	63	科目名	小児の成長発達と看護	科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名				
授業概要	子どもの成長発達健康増進のための子どもと家族への看護実践を学ぶ。				
授業目標	1.小児各期(乳児・幼児・学童期・思春期)の成長や発達の特徴を理解する 2.小児各期(乳児・幼児・学童期・思春期)における特徴的な生活援助の方法を理解する 3.小児看護学における発達論を学ぶ 4.子どもと家族を取り巻く社会について学習する				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	子どもの成長・発達	1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方(一般的原則) 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価	講義
2 3 4 5	乳児期の子どもの成長・発達と看護	1)乳児期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚機能、運動機能、知的機能 4)コミュニケーション機能、 情緒・社会的機能 5)乳児の養育および看護 ・日常生活の世話 ・遊びの支援 ・事故防止、乳幼児突然死症候群とその予防 ・育児支援	講義・演習 グループワーク 調乳演習 (離乳食試食)
6 7	幼児期の子どもの成長・発達と看護	1)幼児期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚機能、運動機能、知的機能 4)コミュニケーション機能、 情緒・社会的機能 5)幼児の養育および看護	講義
8 9	学童期の子どもの成長・発達と看護	1)学童期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚・運動機能、知的・情緒機能、社会的機能 4)不適応行動・症状 5)学童を取り巻く諸環境 6)学童の養育および看護	講義
10 11	思春期・青年期の子どもの成長・発達と看護	1)思春期・青年期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)知的・情緒(心理)的・社会的機能 4)生活の特徴 5)心理・社会的適応に関する問題 6)飲酒・喫煙 7)性に関する健康問題 8)反社会的・逸脱行動 9)事故・外傷 10)思春期の看護	講義 グループワーク
12	家族の特徴とアセスメント	1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント	講義
13 14 15	子どもと家族を取り巻く社会	1)児童福祉 2)母子保健 3)医療費の支援 4)予防接種 5)学校保健 6)食育 7)特別支援教育 8)臓器移植 9)子どもの虐待と看護	講義 グループワーク

テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル 小児看護
成績評価	終講時学科試験 レポート 参加度

シラバス番号	64	科目名	健康障害を持つ小児の看護		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名　専任教師1名					
授業概要	健康障害が小児及び家族について及ぼす影響について理解し、あらゆる健康状態にある小児及びその家族の看護について理解する					
授業目標	1.小児各期によく見られる健康問題の症状を理解し、援助について学習する 2.生命の危機状態にある子どもとその家族への支援を学習する 3.子どもがおかれた様々な状況（環境）に特徴づけられる看護を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	代表的な小児疾患の理解	1) 新生児期に多い疾患・症状 （新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・脳室周囲白質軟化症 未熟児網膜症・ファロー四徴症・心房中隔欠損症・心室中隔欠損症 新生児黄疸・動脈管開存症・新生児メレナ・低血糖） 2)染色体異常（ダウン症候群・18トリソミー・性染色体異常） 3)感染症（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・髄膜炎 B群溶血性レンサ球菌感染症・梅毒） 4)神経疾患：脳性麻痺・進行性筋ジストロフィー	講義
4 5	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1）病気・障害が子どもと家族に与える影響 (1）病気・障害に対する子どもの反応 (2）子どもの病気・障害に対する家族の反応 2）子どもの健康障害と看護 (1）健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 (2）子どもの治療・健康管理にかかわる看護 (3）子どもの日常生活にかかわる看護 (4）健康問題をもつ子どもの家族の看護	講義 グループワーク
6	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1)外来における子どもと家族の看護 (1）子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 (2）外来の環境	講義・演習 ビデオ
7 8		2）在宅療養中の子どもと家族の看護 (1）在宅療養の環境と看護の役割 (2）在宅療養中の子どもと家族の特徴・看護	講義
9	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1）災害時の子どもと家族の看護 (1）被災地の環境と看護の役割 (2）災害時の子どもと家族の特徴・看護	講義
10 11	子どもにおける疾病の経過と看護	1)慢性期にある子どもと家族の看護 2)慢性状態が子どもに与える影響 3)症例を用いて病態の理解 （Ⅰ型糖尿病・気管支喘息・ネフローゼ症候群）	講義 グループワーク
12 13 14		1）急性期にある子どもと家族の看護 2）症例を用いて病態の理解 （肺炎・川崎病・幽門狭窄症・腸重積・腸炎）	講義 グループワーク
15		1)終末期にある子どもと家族の看護 (1)子どもの生命・死のとらえ方 (2)子どもを亡くした家族の看護 (3)終末期における多職種チームアプローチ	講義 ビデオ

テキスト	系統看護学講座　専門分野 小児看護学概論　小児臨床看護総論 小児看護学1　医学書院 系統看護学講座　専門分野 小児臨床看護各論　小児看護学2　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　小児看護
成績評価	終講時学科試験　レポート　参加度

シラバス番号	65	科目名	小児看護技術		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	技術は子どもの安全のうえで大切である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していく。基礎看護学などでの学びを基礎に、成長・発達途上にあるがゆえに、環境の影響を受けやすく変化が早い、健康が障害された小児の理解と特性に応じた看護援助技術の方法を学ぶ					
授業目標	1. 小児各期(乳児期・幼児期・学童期・思春期)の子どもの生活を理解する 2. 小児各期(乳児期・幼児期・学童期・思春期)の子どものアセスメントを行うために必要な援助技術を習得する 3. 健康問題をもつ子どもおよび親・家族への援助を計画し、実践を試みる 4. 行った実践を評価し、さらなる看護の展開を試みる 5. 医療チームの一員として、看護職が行う健康問題をもつ子どもおよび親・家族に対する役割を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	子どものアセスメント	1)コミュニケーション(乳児、幼児、学童期、思春期) 2)特別なニーズのある子どもとのコミュニケーション 3)家族(親)とのコミュニケーション 4)子どものへの説明と同意	講義 グループワーク ロールプレイ
3		1)バイタルサインの測定 2)身体計測 3)身体的アセスメント	講義、演習
4 5	症状を示す子どもの看護	1)発熱時のアセスメントと看護 2)脱水時のアセスメントと看護 3)痙攣時のアセスメントと看護	講義
6 7	検査・処置を受ける子どもの看護	1)子どもにとっての検査・処置体験 2)与薬:経口与薬、座薬、注射 3)輸液管理	講義・演習 ビデオ
8 9		4)抑制 5)検体採取:採尿、採便、採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺	講義・演習
10		6)経管栄養 7)浣腸	講義・演習
11 12 13		8)呼吸症状の緩和:鼻腔・口腔・気管内吸引、酸素療法、吸入療法 9)救命処置	講義・演習
14	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1)入院中の子どもと家族の看護 2)入院環境と看護の役割 3)入院中の子どもと家族の特徴 4)入院中の子どもと家族の看護	講義 グループワーク
15	子どもにおける疾病の経過と看護	1)周手術期の特徴 2)周手術期の子どもと家族の看護 3)プレパレーション	講義・演習 ビデオ

テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　小児看護
成績評価	終講時学科試験　レポート　参加度

シラバス番号	66	科目名	母性看護学の概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師1名					
授業概要	母性看護の基盤となる概念を、母性看護を実践するうえでの考え方や方向性と関連付けて学ぶ。また、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として、次世代の健全育成を目指す看護を学ぶ。					
授業目標	ライフサイクルにおける母性の特性と起こりやすい健康障害を持つ人々とその人をとりまく人々への看護について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	母性看護の基盤となる概念	1)母性とは 2)母子関係と家族発達 3)セクシュアリティ 4)リプロダクティブヘルス／ライツ	講義
2 3		母性看護のあり方 母性看護における倫理	講義 DVD視聴
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1)母子保健統計 2)法律と制度 3)母性看護に関わる施策	講義
5	女性のライフステージ各期における看護	1)ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2)思春期の健康と看護	講義
6	リプロダクティブ・ヘルスケア	1)家族計画 2)性感染症とその予防 3)人工妊娠中絶と看護	講義
7	リプロダクティブ・ヘルスケア	1)性暴力を受けた女性に対する看護 2)児童虐待と看護 3)国際化社会と看護	講義 DVD視聴
8	リプロダクティブ・ヘルスケア	災害時における女性と妊産婦・新生児への支援	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学1　母性看護学概論 医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　母性看護
成績評価	終講時学科試験、レポート、参加度

シラバス番号	67	科目名	周産期の看護1		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師2名					
授業概要	・妊娠期の妊婦および家族の看護について、妊娠期の身体的変化、心理・社会的変化をまず理解する。そのうえで、妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護を学ぶ。 ・分娩期の産婦の看護について、分娩の経過に伴う身体的変化および、心理・社会的変化を理解し、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。					
授業目標	妊娠・分娩の生理を理解し、この時期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	妊娠期の看護	妊娠の成立（月経周期も含む） 妊娠期間と分娩予定日	講義
2		妊娠期の身体的特徴 妊娠期の心理的特徴	講義
3		胎児の発育と胎児付属物の機能 妊婦健康診査の概要、妊婦への検査	講義
4		妊娠経過のアセスメント ヘルスアセスメントに必要な技術	講義
5 6 7		ヘルスアセスメントに必要な技術 健康状態を保持・増進するための看護 予測される問題と看護　　出産準備への看護	演習 グループワーク
8 9		健康状態を保持増進するための看護 予測される問題と看護　　出産準備への看護	グループワーク発表
10	分娩期の看護	分娩期にある対象の特性 分娩期に必要な用語 分娩の現象の経過・解剖	講義
11		分娩が母胎に及ぼす影響 分娩経過に影響を及ぼす因子 産痛	講義 グループワーク
12		分娩の開始・予測 分娩経過の判断 胎盤娩出・胎児の状態	
13		分娩経過の予測 バースプランについて	
14		入院時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 グループワーク
15		分娩時に必要な情報 看護計画	

テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学2　母性看護学各論　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　母性看護
成績評価	終講時学科試験　レポート　出席状況

シラバス番号	68	科目名	周産期の看護2		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師1名 非常勤講師2名					
授業概要	・産褥期の褥婦及び家族の看護について、褥婦の身体的変化の理解、産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント、および褥婦・家族の心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。 ・新生児の看護では、出生を境にした胎児から新生児への生活環境および生理的変化を理解し、児の健康な発達を援助する。					
授業目標	産褥・新生児の生理を理解し、この時期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	産褥期の看護	産褥期看護の特徴 産褥期の身体的特徴	講義 グループワーク
2		母乳分泌 産褥期の心理社会的特徴	
3		復古に関する看護 退院後の生活調整への支援	
4		母乳育児に関する看護	
5		産褥経過のアセスメント 母性看護過程	
6 7 8		母性看護過程演習 事例のアセスメント・看護計画立案 沐浴演習	演習 グループワーク
9		産褥期の看護シミュレーション	演習
10		育児支援	講義 グループワーク
11	新生児の看護	新生児の定義 新生児の形態・機能 体外生活への適応（循環・体温・消化）	講義
12		新生児の観察 新生児の診断・検査・評価 新生児の代表的な疾患・治療・看護	講義
13		新生児の看護 出生直後、出生直後から退院まで 産前訪問、母子同室、清潔、環境、医療事故	講義 グループワーク
14		新生児の成長・発達を促す看護 早産児・低出生体重児の特徴 ディベロップメンタルケア	講義
15		疾患を持つ新生児の家族の看護 新生児の家族の看護、看取りの看護	講義 グループワーク

テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学2　母性看護学各論　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　母性看護
成績評価	終講時学科試験　レポート　参加度　出席状況

シラバス番号	69	科目名	周産期の看護3		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	「母性看護学の概論」「周産期の看護1・2」での学びを土台に、妊産褥婦に起こり得る正常を逸脱した状況における看護及びその家族について学習し理解を深め、更に予防について考える。					
授業目標	ハイリスクを伴った周産期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	妊娠の異常と看護	・ハイリスク妊娠とは ・高齢妊婦（出生前診断も含む） ・若年妊婦の看護	講義・課題学習
2		・多胎妊娠	講義・課題学習
3 4 5		・妊娠高血圧症候群妊婦の看護 ・切迫早産妊婦の看護 ・糖尿病妊婦の看護 ・妊娠性貧血妊婦の看護	課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
6		・感染症と看護（褥婦の看護や産褥熱・乳腺炎も含む）	講義・課題学習
7	分娩の異常と看護	・破水が生じた産婦の看護	講義・課題学習
8		・分娩時異常出血のある産婦の看護	講義・課題学習
9		・胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 （過強陣痛も含む）	講義・課題学習
10		・分娩遷延のリスクのある産婦の看護（陣痛促進剤も含む）	講義・課題学習
11		・急速遂娩（吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開）を受ける 産婦の看護（陣痛の異常も含む）	講義・課題学習
12 13 14	産褥の異常と看護	・帝王切開術後の看護	講義・課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
15		・産後の精神障害についてと看護 ・乳房トラブル ・まとめ	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学2 母性看護学各論　医学書院
成績評価	終講時学科試験（80%）　課題学習（レポートも含む）（20%）

シラバス番号	70	科目名	精神看護学の概論		科目の区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について学ぶ					
授業目標	1. 精神の健康・不健康とは何か、「正常」と「異常」をはかるものさしとなっている「ふつう」というものさしについて考える 2. 精神の健康の定義、健康や障害の3側面を理解する 3. 心のさまざまなはたらきとしくみについて生理学的・心理学的・社会学的側面から理解する 4. 代表的な精神療法の基本的考え方を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神看護学の考え方(1)	1)こころとは何か 2)こころの捉え方	講義
2	精神看護学の考え方(2)	3)こころの多様な側面1	グループワーク
3	精神看護学の考え方(3)	4)こころの多様な側面2	発表と相互評価
4	心の構造と働き(1)	1)認知と感情	講義・演習
5	心の構造と働き(2)	2)学習と行動1	講義
6	心の構造と働き(3)	3)学習と行動2	講義
7	心の構造と働き(4)	4)パーソナリティー	講義・演習
8	心の発達(1)	フロイトとエリクソン	講義
9	心の発達(2)	ピアジェ、ボウルビィ、レヴィンソン他	講義
10	家族論	1)家族のイメージ 2)家族の機能 3)システムとしての家族	講義・演習
11	精神保健の考え方(1)	1)正常と異常	講義
12	精神保健の考え方(2)	2)ストレスとその対処 3)自己効力感	講義・演習
13	主な精神疾患	1)統合失調症 2)気分障害 3)その他の疾患	講義
14	精神疾患の治療	1)薬物療法 2)精神療法 3)社会・環境療法	講義
15	看護の倫理と人権擁護	1)精神医療におけるアドボカシーの必要性 2)生活の場としての治療環境 3)様々な拘束の形 4)精神障害者の権利擁護	講義
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　　医学書院		
成績評価	終講時試験、グループワークへの参加と発表評価		

シラバス番号	71	科目名	精神障害を持つ人の理解		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	精神看護の基本概念や精神医学の診断・治療を理解し、看護援助に活かす					
授業目標	1.精神機能（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など）の障害であるさまざまな精神症状を学ぶ 2.精神障害の診断と分類、それに基づくさまざまな精神障害について学ぶ 3.精神科における身体療法、精神療法について学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.精神医療と看護の歴史的変遷	1）日本の精神保健医療看護の歴史 2）精神医療の現状と問題	講義 DVD
2	2.精神障害の分類と特徴	1）統合失調症	
3		2）気分障害	
4		3）不安障害 4）人格障害（パーソナリティ障害） 5）アルコール依存症	
5		6）身体表現性障害 7）PTSD 8）認知症	
6	3. 医学的検査と心理検査	1）脳波検査 2）脳の画像検査 3）脳脊髄液検査 4）知能検査 5）記銘力検査 6）人格検査	
7	4.治療の構造 1）身体療法	(1）薬物療法 (2）電気けいれん療法	
8	2）精神療法	(1）個人・集団精神療法 (2）家庭(社会）精神療法	

テキスト	精神看護学Ⅰ　精神保健学　第6版　NOUVELL HIROKAWA 精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　第6版　NOUVELL HIROKAWA
参考資料	ナーシングチャンネル　精神看護
成績評価	終講時試験

シラバス番号	72	科目名	精神に障害を持つ人の生活と看護		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	精神に障害を持つ人への援助の実際を学ぶ					
授業目標	1.精神に障害をもつ人の共感的理解を通じて、種々の疾患や症状およびその治療過程における看護を理解する 2.症状による苦痛の軽減や生活上の困難を補うこと、また健康の回復と社会復帰に向けた自立の支援について学習する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神看護の考え方 精神を病む人の理解と対応	1)精神看護の考え方 2)精神看護師の役割 3)精神看護の経済性 1)精神疾患患者の理解 2)行動制限と看護	講義 映画鑑賞
2	精神を病む人の理解と対応	3)急性期から回復期・慢性期の看護	
3	精神看護のリスクマネジメント 精神看護に用いる理論・モデル	1)リスクマネジメントとは 2)精神科医療における医療事故 3)事故防止と対応 4)無断離院の防止と対応 セルフケア理論	
4 5	精神を病む人への看護援助の基本	1)日常生活援助 2)活用する技法 コミュニケーション　作業療法 ロールプレイング　面接 カウンセリング　レクリエーション SST	
6	精神看護の看護過程 司法精神看護	精神看護の看護過程 1)司法精神医療と医療観察法 2)医療観察法における処遇 3)CVPPP	
7	精神看護の実践 症状アセスメントとケアプラン	1)幻覚・妄想患者の看護 2)せん妄患者の看護 3)抑うつ状態の患者の看護	
8		4)興奮状態の患者の看護 5)拒絶的な患者の看護 6)引きこもり状態の患者の看護	
9		7)操作をする患者の看護 8)自殺・自傷行為がある患者の看護 9)不眠状態の患者の看護	
10		10)依存状態の患者の看護 11)認知症の患者の看護 12)不安状態の患者の看護	

回	項目	内容	方法
11		13)意欲減退状態の患者の看護 14)攻撃的行動をとる患者の看護 15)強迫行為のある患者の看護	講義
12		16)躁状態の患者の看護 17)解離性障害の患者の看護 18)摂食行動の障害の患者の看護	
13		19)パニック障害の患者の看護 20)児童・思春期・青年期の精神看護 21)身体合併症患者の看護	
14	精神障害者のリハビリテーション	精神科リハビリテーション	
15	精神訪問看護	精神訪問看護の実際	

テキスト	精神看護学Ⅰ　精神保健学　第6版　NOUVELLE　HIROKAWA 精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　第6版　NOUVELLE　HIROKAWA
参考資料	ナーシングチャンネル　精神看護
成績評価	終講時試験

シラバス番号	73	科目	生活の場と精神保健		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名					
授業概要	精神保健福祉における現状と支援活動及び災害精神保健医療活動について学ぶ					
授業目標	1. 精神障害者の人権を守り、社会生活を支えていくための援助技術を理解する 2. 精神障害者の社会生活を支える精神保健福祉制度を理解する 3. 社会生活における精神障害者が利用する精神保健福祉サービスの実際を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神保健福祉の歴史	テキスト第2章より「わが国の精神保健福祉の変遷・諸外国の精神保健福祉改革」について解説	テキスト、パワーポイント、資料、DVD視聴
2	精神保健福祉に関する法律と施策	テキスト第3章より「精神障害者支援にかかわる法律・施策の動向」について解説	
3	精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術①	テキスト第4章より「精神障害の予防のために(一次予防)」について解説	
4	精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術②	テキスト第4章より「早期の対応と地域生活をつなぐために(二次予防)・能力の再構築と再発防止のために(三次予防)」について解説	
5	地域移行支援・地域生活支援の基礎・展開	テキスト第5・6章より「地域移行支援・地域生活支援の重要性・地域移行支援・地域生活支援の基礎知識/早期退院支援と退院後の地域生活支援」について解説	
6	災害時精神保健医療活動	阪神大震災以降活動している行政と精神科病院が連動して取り組んでいる災害時の支援を学習・ひょうごDPAT活動の実際を確認	
7	事例学習	模擬事例を用いた精神科病院からの退院支援についてグループワークを行う	
8	まとめ	これまでの講義の振り返り	
テキスト	系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　第4版　医学書院		
成績評価	終講時試験		

シラバス番号	74	科目名	災害看護学		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次前期・後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師2名					
授業概要	赤十字の理念である人道の具現化として赤十字災害救護活動への理解を深めることを目的とする。 また、講義で学んだ知識と共に救護技術の習得を目指し、災害救護演習を実施する。 災害救護訓練では、災害時に看護専門職の救護活動に必要な判断力と意思決定、基本的な救護技術、心構えと態度、行動力を習得する。					
授業目標	1. 災害看護に求められる役割を理解する。 2. 災害看護に必要な知識・技術を習得する。 3. 災害サイクルに応じた災害看護を学ぶ。 4. 被災者や救護者のこころのケアを学ぶ。 5. 赤十字救護班の役割と活動を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割 2. 災害看護の対象 3. 災害看護の特徴と看護活動	講義
2	赤十字と災害看護	1. 赤十字の理念と災害看護 2. 赤十字災害看護の法的根拠 3. 赤十字救護班 1)救護班の編成と救護員の役割 2)救護所の設営と運営・救護資機材	
3 4	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア	講義 グループワーク
5 6 7	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 災害サイクル別の看護 2. CSCATTTの考え方 トリアージと応急処置 トリアージタグの取り扱い方 3. 災害看護活動の実際 1)被災病院の初動体制・傷病者受け入れ 2)救護所の立ち上げと傷病者対応 3)避難所における健康と生活支援 4)災害準備教育 4. 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義 演習
8 9 10 11	救護所での医療活動	1. 救護所の設営 ①設営場所および救護所内のレイアウト ②人員および救護資機材の配置 2. 総合シミュレーション ①メンバーの役割決定と連携 ②救護活動、応急処置の確認 ③トリアージ・応急手当・搬送	講義 演習
12 13 14	災害救護演習	トレーニングセンター 1. 基礎行動訓練、救護資機材の取扱い 2. 災害救護演習 救護班の役割を体験する	合同演習
15	演習まとめ	1.振り返り 2.課題	ディスカッション

テキスト	系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　災害看護
成績評価	課題レポート(演習等の参加度を加味する)、終講時学科試験

シラバス番号	75	科目名	医療安全		科目の区分	専門分野
履修年次	2年生後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たすためのリスクに関する感性を高め、医療事故を未然に防ぐ基礎的能力を身につける					
授業目標	1. 医療安全を学ぶ意義とその重要性について理解する 2. 国および医療関係団体の医療安全への取り組みを理解する 3. 事故発生のメカニズムおよび自己分析、事故対策について理解する 4. 看護業務に関連する事故と安全対策について理解する 5. チームで取り組む安全文化の醸成について理解する 6. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策について理解する 7. 看護学生の実習と安全について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	医療安全を学ぶ意義	1)人はなぜ間違いをおかすのか 2)意識状態の変動と医療安全 3)人間の3つの行動モデルと医療安全 4)看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義
2 3 4	看護職の法的規定 医療安全の取り組み 事故発生のメカニズム 医療安全とコミュニケーション	1)看護職の法的規定 2)国の医療安全への取り組み 3)看護職能団体の取り組み 4)事故発生のメカニズム 5)医療安全とコミュニケーション	講義 演習
5	事故防止の考え方	1)医療事故と看護業務 2)看護事故の構造 3)看護事故防止の考え方	講義
6 7 8	診療の補助の事故防止	1)注射業務と事故防止 2)輸血業務と事故防止 3)内服与薬業務と事故防止 4)経管栄養(注入)業務と事故防止 5)チューブ管理と事故防止	講義
9	療養上の世話の事故防止	1)転倒・転落事故防止 2)誤嚥、異食、入浴中の事故防止	
10	患者間違いと発生要因	1)要因と防止 2)多重課題、タイムプレッシャー、業務中断 3)思い込みと行動パターン	
11	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1)院内暴力	講義
12	組織的な安全管理体制への取り組み	1)組織としての医療安全対策 2)システムとしての事故防止 3)事故発生時の医療チームおよび組織の対応	講義
13 14	事例から考えよう	インシデント・アクシデント RCA分析	講義 演習
15	看護学生の実習と安全	1)実習における事故の法的責任と補償 2)実習中における事故予防及び事故発生時の学生の対応 3)実習における安全についての指導者の役割	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　医療安全　看護の統合と実践2　医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル　医療安全
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	76	科目名	看護管理		科目の区分	専門分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	看護を提供するための資源(人的資源・物的資源・財的資源)を有効利用し、それを維持・活用するためのしくみ(マネジメント)を学ぶ。 看護をしくみとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればよりよい看護が提供できるのかなどを追求し、同時に多数の人々がともに働くための技を学ぶ。					
授業目標	1. 看護管理学に含まれる要素、看護におけるマネジメントが必要とされる場、変遷について理解する。 2. 看護職の提供する看護ケアのマネジメント、安全管理、チーム医療について理解する。 3. 看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解する。 4. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲、看護サービス提供のための仕組みと評価、組織におけるマネジメントについて理解する。 5. 看護におけるマネジメントを学ぶにあたって必要な知識として、看護の定義や諸制度について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護とマネジメント	・看護管理学 ・看護におけるマネジメント	講義
2 3	看護ケアのマネジメント	・マネジメントと看護職の機能 ・患者の権利と尊重 ・安全管理 ・チーム医療 ・看護業務の実践	講義 グループワーク
4	看護職の キャリアマネジメント	・キャリアとキャリア形成 ・看護職のキャリア形成 ・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント	講義
5 6	看護サービスの マネジメント	・組織目標達成のマネジメント ・看護サービス提供のしくみづくり ・人材マネジメント ・施設・設備環境のマネジメント ・物品のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織におけるリスクマネジメント ・サービスの評価	講義 グループワーク
7	看護を取り巻く諸制度	・看護職に関する制度 ・医療制度 ・看護政策と制度	講義
8	マネジメントに必要な 知識と技術	・組織とマネジメント ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整	講義

テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護管理　看護の統合と実践1　医学書院
成績評価	終講時学科試験

シラバス番号	77	科目名	統合技術演習		科目の区分	専門分野
履修年次	3年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師4名					
授業概要	臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができる。 臨床に近い状況下での演習を通して、3年間の学習で習得した知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。					
授業目標	1. 複雑な看護場面において多重課題に優先順位をつけ、自己の対応能力をアセスメントして、同僚(他者)の支援の必要性の有無を判断しながら対処することができる。 2. 臨床実践能力の構造の中の看護技術を支える要素について考える。 より対象理解を深めたアセスメントを行い、その場に必要な知識・技術を駆使 して、安全・確実に看護を実践することができる。 3. 地域で過ごす対象に応じたケアマネジメントを考えることができる。 4. 演習やこれまでの学びを振り返り、自己の看護観や人道についての考えを深めることができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	導入 課題提示	統合技術演習の意義・目的 演習1:地域で安心して過ごすためのケアマネジメント (ケアプランの検討) 演習2:割り込み事例への対応 演習3:3年間の学びの共有	グループワーク 技術練習
2 3	ケアマネジメント	地域包括ケアシステムについて考える 模擬患者のアセスメントシートを参考にして患者が安心して暮らすために必要な支援・ケアプラン等を検討する	グループワーク
4 5	ケアマネジメント	地域で暮らすためのケアプランの立案	発表
6 7 8 9 10 11	技術練習 模擬患者演習	多重課題(割り込み)への対応 事例患者に対する看護援助を考える(援助計画立案) 実際にベッドサイドで援助を行う 実践の根拠を明確にする 優先順位、看護倫理に配慮する メンバーで協力する(チーム医療)	グループワーク
12 13	模擬患者演習	多重課題(割り込み)への対応	発表
14 15	看護体験の共有 まとめ	3年間の講義・演習・実習での学びを共有する 「人道」や「看護観」について考える	グループワーク 発表

テキスト	ナーシングチャンネル 全科目参考資料 資料配布
成績評価	グループワーク:参加度 技術練習:グループ評価、実技評価 看護体験の共有:参加度 これらを合わせて総合評価とする